

蒸溜釜中（煙突ある建物）に入れて熱するのであるが、始めは徐々に加熱して揮發油分を除去し、段々火熱を高めて燈油分を蒸發せしむる。此の蒸發釜中より出た油分は冷水中に於ける長さ數百尺の鐵管を通過せしめて、此れを液化させるのである。此れを棧橋の突當りの建物なる垂場に集めたる後、右方四つの圓筒形の洗條場^〇に送る。

此處にて燈油用溜出分の精洗をなし前記の夾雜物を除去するのである。今日は硫酸精洗法^〇が一般に行はれて居る。此の精洗法は先づ漏斗形をせる「タンク」に所要の硫酸と溜出燈油を入れてよく攪拌するのである。然る時は硫酸は夾雜物を取る。其の汚硫酸は重いから「タンク」の器底より流出せしむる。更に又水を加へて攪拌靜澄して硫酸の殘部を去り、次に苛性曹達と水で別々に同様操作をなすのである。現今攪拌法としては壓迫空氣^〇を吹き込んで居る。此くの如き方法にて燈油を精練し上ぐるのである。棧橋は多くの「タンク」に往來する爲めである。

燈油は無色透明なるを上等とす。普通は稍々黄色を帯びたものが多い。

4、舊教科書は油井の挿畫であつたが、此度此の製油所の挿畫とせるは産業上の趣味を喚起せん爲めである。

5、下畫は石油を運ぶ列車で中央の「タンク」に原油を貯へ、此れより「タンクカー」に積み込み、直江津等の製油所に送るのである。新潟縣の新津、長岡、柏崎等に至らば至る所に此の列車を見る。

五、兒童作業

(一) 研究問題

- 1、農業の發達せるは何れの地方か。
- 2、重なる農産物を調べよ。
- 3、長野縣・愛知縣地方に養蠶業盛なるは何故へか。
- 4、製絲業の盛なる所は何處か。
- 5、本地方に於ける重なる工業品をあげ其の産地を調べよ。
- 6、林業の盛なる所は何處か、又木材の種類を調べよ。
- 7、輸出羽二重検査の方法を研究せよ。
- 8、如何なる礦物を産出するか。
- 9、石油精製の方法を研究せよ。

10、水産物の多き所は何處か。

11、本地方に諸種の産業行はるゝ理由を述べよ。

(二) 産業圖を書かしむ。

(三) 繪畫の自由研究。

六、教授上の注意

1、教科書は地勢と産業との連絡に最も意を注がれ居るを以て、此の點は十分に注意して取扱ひたし。

2、挿畫は何れも産業の盛況を教示する爲めに入れたもの、何れも製法を知らせて、産業上の趣味を興へん目的である。

3、本地方は農業・工業・鑛業・商業等の多方面の産業盛なるは何故へなるかを明かにし、且つ人間が如何に自然を利用し居るかに着眼せねばならぬ。

4、本書内の産業比較表を利用して本地方の産業が、全國より見て如何なる位置に居るかを明かにすることが價値多い見方である。

第五節 都 邑

一、主眼點

本地方の沿岸地方は元より山地に至るまで、都邑よく發達せるは何故へなるかを調べ、都邑分布の狀況を知らしむ。

二、準備

中部地方掛圖、標本(茶、濱松の織物、瀬戸焼、繭、生絲、賣藥、九谷焼)。繪畫(名古屋城、長良川の鶉狩、葡萄園、兼六公園等)

三、教材解説

教科書に

「沿岸地方はことに都邑多く、中央部の山間にも亦都邑少からず」とある如く、本地方は太平洋沿岸地方、日本海岸地方は元より、中央山地も比較的に入文よく發達して居る。其の理由をあげると、

1、南太平洋沿岸地方は關東近畿兩地方の通路に當り、交通の便大に、農業工業盛なること。

人文開け居る理由。

2、日本海沿岸地方は鐵道縱貫して交通便に、且つ石油の産に富み、工藝品を出す所多い。
 3、中央部山地は養蠶業盛なること。唯だ飛驒の山間は人文の發達が十分でない。

熱海

伊豆半島の東側相模灣に臨める温泉場にして、大湯と種する間歇泉は一日に五回の湧出を
 をなし、一年に一・二回の大湧出をなすのである。

修善寺

伊豆鐵道の終點大仁の南にある名高き温泉場である。此の地は源範頼の流されし所にし
 て、頼家・範頼の墓がある。

○伊豆半島に温泉場多きは、何故、へか。

駿河灣沿岸の保養地

駿河灣頭は即ち田子の浦にして白砂青松遠く連なり。後に富士の高嶺を仰ぎ、前に伊豆の
 連山を臨みて風光明媚、保養に適する所多く、沼津・興津等の勝地に富んで居る。

○田子の浦うちて、見れば眞白にそ

富士の高嶺に雪はふりつゝ、

静岡

安倍川の下流に位し、製茶、漆器、竹細工の業盛にして、清水港より茶を輸出する。此の
 地は元と駿府と稱し、徳川家康退隱の所である。

静岡縣は縣下至る所茶の栽培行はれ、中にも富士川以西が盛である。

駿河路や花桶も茶の香ひ。

濱松

濱名湖の東にあり、古の曳馬の里にして、古來東海道の要衝として名高く、今は樂器の製
 造盛に行はれ、又綿織物を出すこと多く、市況日に殷賑となりつゝある。

豊橋

豊川の下流に位し、製絲業盛にして、附近に第十五師團司令部を置かれてある。

岡崎

矢矧川の東側に位し、製絲業盛に行はれ、徳川家康起業地として知られて居る。
 名古屋

濃美平野の南部に位し、人口四十七萬、中部地方第一の大都會にして、東京・京都に對し、

世に中京と稱せられ商工業甚だ盛である。

名古屋附近圖



○發達の源因

- 1、位置好良なること。
- 2、周囲の地方に産物多きこと。
- 3、交通の中心地をなすこと。(東海道線、關西線、中央線の交叉點)

重なる産物は陶器、綿絲、綿布、時計、燐寸、七寶燒等である。

○熱田神宮は官幣大社にして、日本武尊を主神とし、三種の神器なる草薙劍を祀つてある。神域廣潤、老松古杉鬱蒼として自ら襟を正さしむるものがある。

岐阜

濃美平野の北部の中心地をなし、西に長良川を控かへ東に稻葉山を負ひ形勝の地である。長良川は鶉狩を以て名高い。

大垣と養老瀧

大垣は濃美平野の西北に位せる中心地にして、米の取引盛である。大垣の西南にある養老の瀧は高さ九丈幅九尺、放沫飛んで衣袖を潤ほし快言ふ可からざるものがある。附近の養老山腹を開いて公園となし、遊覽の士杖を曳くもの多い。

高山

飛驒盆地の中央に位し、交通不便、山中の別天地をなして居る。養蠶業行はれ春慶塗と一位細工にて著はる。

甲府

甲斐は四方繞らすに山を以てし、中央に低く所謂甲斐の盆地を作る。實に模式的の盆地をなして居る。四方に發せる諸川は中央に集まり富士川となり南に落ちて静岡縣に出づ。甲府は此の甲斐盆地の中央にあり、地形上他に著しき都會なく一國一都の觀がある。従つて貨物の大集散地をなし、繭・生絲の取引頗る盛にして、水晶細工は本縣の特産物として知られて居る。

松本

長野縣は大山脈縦横に重なり縣内は數多の小盆地に區分され、地形上北信地方と南信地方とに分かれて居る。北信地方は善光寺平と佐久平、上田盆地を含み、南信地方は松本平、木曾谷、伊那谷、諏訪盆地等である。

松本は松本平の中央に位し、繭・生絲の取引盛にして、南信地方の首位に居り、北信の長野に對して居る。

長野

善光寺平の中心に位し、南に川中島の平地を望み、北信地方の霸者たる位置に居る。

善光寺は町の北端に位し阿彌陀如來を本尊とす。伽藍宏大結構精妙、賽者常に絶えず。長野は善光寺によつて發達せる都府と云ふべきである。

新潟

信濃川の河口に位す、河口に土砂堆積すると、風波荒きは其缺點とする所なるも、南に越後の大平野を控かへ、今信越線と岩越線とが此の地にて連結され、交通便利、商工業の要地である。

直江津

近頃北陸線全通して信越線と此の地にて連絡す。良港にあらざれども、新潟と共に日本海沿岸に於ける寄港地をなし居る。

○日本海方面に良港の出來ざるは、何故へか。

高田

直江津の南にあり、第十三師團司令部をおかれ居る。

富山

神通川に跨り、富山平野の中央に位す。米・肥料の取引盛である。此の地は古來賣藥業の盛なるを以て世に其の名を知られて居る。

高岡

庄川の下流に位し、富山平野西半の中心をなして居る。銅器、漆器の産多く、工業都と云ふべきである。高岡銅器は慶長の頃藩主職工に命じて刀劍の装具等を作らしめたるに起り、其の後諸種の銅器を製作し、新工夫を積みて風趣を加へ、今は外國にも多く輸出される様になつた。

伏木

庄川の河口にあり、日本海沿岸に於ては良港たるを失はず米穀の積出盛である。
金澤

犀川の下流に位し人口十萬、日本海方面第一の大都會である。其の發達の原因を擧げると、

- 1、諸種の工業品を出すこと。 || 即ち羽二重、九谷焼、漆器の産出が多い。
- 2、政治軍事上の中心地たること。 || 縣廳の所在地、第九師團司令部あり。
- 3、學術の中心地たること。 || 第四高等學校・醫學專門學校あり。
- 4、前田氏百萬石の舊城地たること。
七尾

能登半島の内側にありて日本海方面に於ける良港である。沿岸航路あると共に汽車通ずるを以て陸上交通の便がある。

福井

足羽川の流れに望む。市内並に其の附近は羽二重の産多く全國一である。市内足羽山に新田義貞を祀れる藤島神社あり、義貞は後醍醐天皇の時、皇太子恒良親王・皇子尊良親王を奉じて北國に來り回復を計つたが、正平四年遂に足利高經と藤島に戦つて戦死した。藤島

古戰場は藤島神社を去る町餘の所にある。

四、挿畫の説明

○名古屋城(五〇頁)

- 1、名古屋城は慶長十五年徳川家康が毛利氏・前田等の西國二十六大名に命じて造營せしめ、此れを第九子義直に與へ、尾張、三河、信濃、美濃六十二萬石の地を領せしめた。今本丸の一部は明治二十六年に名古屋離宮と定められ、三の丸は第三師團司令部を置き兵營となる。
- 2、畫中の中央に高く聳ゆるは天主閣である。加藤清正の建造にして巨石を疊みて臺となし、五層の樓閣を其の上におき、高さ十七間餘あり、屋根は銀板にて葺かれてある。其の土臺の鞏固なる他に比なく、昔日の壯觀を残す。「尾張名古屋は城でもつ」
- 3、屋上の金鯱は木材にて心を作り、其上を銅にて覆ひ、其の上を金にて被はる。北雌は南雄より稍々大で、高さ八尺五寸、胴の周圍七尺三寸、其の鱗片は黄金を以て鑄成し、光耀天日に映じ、數里の外より仰望することが出来る。
- 4、正面入口は離宮の正門である。

5、天下の名城として知られ、徳川氏の勢力の偉大なりしことを物語つて居る。此の意を知らしめん爲めの挿畫である。

○長良川の鶉狩(五十一頁)

- 1、夜中に於ける長良川の鶉狩の畫である。舊教科書の挿畫は多くの船を表してあつたが。此度は一部を大きく寫せるは此れ鶉狩の實況を知らしめ、趣味多からしめん爲めである。
- 2畫に見る如く盛に篝火を燒きて鶉の群集を待ち、鶉匠一人が十二羽の鶉を操縦し、鶉を捕へしむるのである。其の手際の巧なるは驚く程である。
- 3、鶉の呑みたる鮎は此れを吐かして水に放つ、一時間に一羽の鶉が百尾より二百尾程も捕へるから、十二羽では千尾以上捕へるのである。
- 4、鶉狩の盛なる候は五月下旬から六月頃である。鶉狩は月夜をさけ、暗夜に行ふのである。
- 5、鶉狩は實に日本の名物となつて居る。

○甲府の東にある葡萄園(五十二頁)

- 1、本畫は甲府の東勝沼町の東にある公有園を寫せるものである。
- 2、現今は従前の竹棚に代ふるに針金を以てする。上段葡萄園の周圍にいの立てるは此れに針金を引き渡す爲めである。
- 3、下段左方は棚に葡萄蔓のまきつける所である。針金は縦横に碁盤の目の如く引き、目の大きさは方一尺位、棚の高さは五・六尺位である。此れ普通の人が缺で收穫するに適當にしたのである。
- 4、左の別畫は葡萄が房々と垂れたる所を示せるもの、實際を観るが如きである。
- 5、葡萄の種類は日本種は少なく、大部分が西洋種である。勝沼は葡萄酒の製造盛である。

○富山にある賣藥工場内の一部(五十一頁)

- 1、本畫は富山市廣貫堂の工場を寫せるものである。廣貫堂は富山賣藥の主腦にして縣下に於ける賣藥の半を占む。近時海外へ多數の行商人を派遣して居る。
- 2、製藥の方法は近時機械工業に推移し、會社組織にてやる様になつた。株式會社廣貫堂が大なるものである。
- 3、製藥の重なるものは反魂丹、熊膽丸、威應丸、實母散、キナ丹、セメン丹等である。縣一年の産出高五百萬圓、富山市は其の内四百萬圓餘を占めて居る。

○金澤の兼六公園と陶器（五十四頁）

- 1、本畫は兼六公園内の霞ヶ池の所を寫せるものである。池の内に蓬萊島あり、綠垂れる松樹水面に影じ眺め一入である。側に徽軫燈籠あり。池の水流れて溝となる邊に紅霓橋がある。水泉の美を特色としてとりたるものである。
- 2、兼六の名は宏大、幽邃、蒼古、水泉、眺望、人巧の六美を兼ね備へると云ふ意味である。宋の李格非洛陽名園記により白河樂翁公の命名されたものである。
- 3、元は前田家の有であつたが明治七年公園となり、今は縣廳の所管となつて居る。
- 4、水戸の常盤公園（偕樂園）と岡山の後樂園と此の公園とが日本三公園と稱せられる。
- 5、陶器は九谷焼を示せるもの、
- 6、九谷焼の特色は質白色にして模様を描くに赤地に金を用ひるにある。

五、兒童作業

(一)、研究問題

- 1、中部地方にはどんな種類の都邑多いか。
- 2、織物、陶器、漆器の産地をあげよ。

- 3、本地方の良港をあげよ。
- 4、又師團所在地をあげよ。
- 5、名古屋、金澤の發達せる理由を調べよ。
- 6、本地方に比較的都邑多きは何故か。

(二)、産業圖を描かしむ。

- 1、各縣の所に産物名記入、
- 2、都邑の所に産物名記入、

(三)、繪畫の自由研究、

六、教授上の注意

- 1、地勢との連結に注意、山地の都邑と海岸地方の都邑に異なる點あるか。
- 2、都邑の位置を確實にする爲めに標準物に留意。
- 3、鶉狩、葡萄園、製藥工場の挿畫は其の方法を知らせて産業上の趣味を養はん爲めの目的である。
- 4、各都邑の特色を明かにすること。

5、名古屋が太平洋沿岸地方第一の大都となり、金澤が日本海沿岸地方第一の大都となりし理由を明かにすること。

第六節 中部地方の概括

一、主眼點

本地方の太平洋方面、日本海方面、中央山地の三方面に於ける地理的各要素を對照して、自然と人文との關係を明かにし、本地方發展の狀況を確實に了解せしむるにある。

二、準備

日本全圖、中部地方掛圖。各節にて使用せる標本及び繪畫、

三、教

(一)、中部地方は發展すべき好良なる位置に位するや否や。

(二)、本地方を太平洋方面・日本海方面・中央山地の三方面に分ち、地理的各要素の對照をなさしむ。

(1)、右三方面に於ける山岳・河川・平地、

(2)、南北兩海岸の出入の差違、

(3)、右三方面の氣候の異同、

(4)、次に産業の異同と其の理由、

太平洋方面は商業盛、

中央山地は養蠶、製絲業盛、

日本海方面は織物、石油、金の産出多し、

(5)、本地方には如何なる種類の都邑あるか。

工業都、鑛業地、

商業地、取引所、

(6)、交通線は如何なる所を通り居るか、各線路の價值を考へよ。

(7)、各鐵道線路上の都邑を擧げよ。

(8)、本地方が將來益々發達せんと思ふ例證をあげよ。

第五章 近畿地方

第一節 位置

二〇八

一、主眼點

近畿地方が他に勝ぐれて人文の發達せるは何故へなるか、此れ位置の好良なるによること大なるを知らしむるにある。

二、準備

日本全圖掛圖、近畿地方掛圖、

三、教材

1、近畿地方の四圍

東は中部地方に接して同地方の富源を吸収し、西は中國・四國に對して、此の方面の貨物を吸収すると共に、其の勢力を此等の地方に及ぼすことが多い。又北は日本海に出で、南は太平洋に臨みて活動自由なる位置にある。

2、日本全體より見たる位置

本州の中央に位して東に中部・關東の兩地方を控かへ、西は九州より朝鮮・支那に對し、又遠く歐州に向ひ、我が國西部の玄關たる觀をなして居る。近畿地方が古來人文よく發達し永

く帝國の中心となりしは此の位置好良なるによること大である。

3、區分

中央部—大阪府と滋賀縣、

西北部—京都府と兵庫縣、

東南部—和歌山縣、奈良縣、三重縣、

四、教授上の注意

1、日本全體より見て本地方が如何に好良なる位置に居るかを考察せしむること。

2、本地方の府縣の位置は中央部・西北部・東南部の三地方に分かれて取扱ふこと。

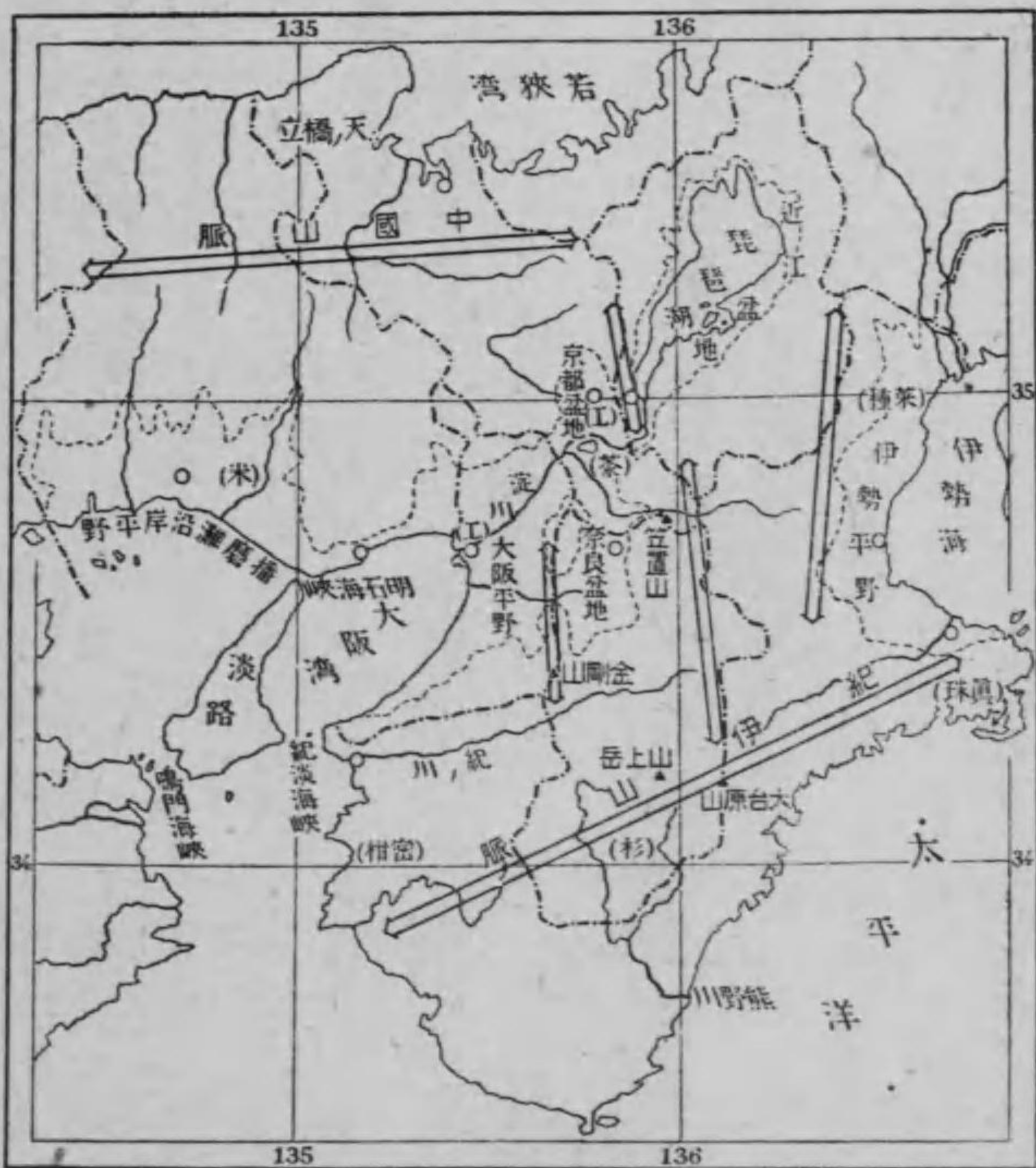
第二節 地勢

一、主眼點

本地方の地勢の特色を知らしめて、何れの所に人文最もよく發達せるかを研究せしむるが主眼である。

二、準備

近畿地方の地勢及産業圖



して所謂丹波高原をなし、立派なる高原性の地勢を具へて居る。其餘脈は南北の海岸に

二一〇

日本全圖、近畿地方地勢圖、琵琶湖・天の橋立・鳴門海峡の繪畫、

三、教材

地勢の特色

○地勢自ら三大區分さる。

- (イ) 西北部—山地
- (ロ) 東南部—山地
- (ハ) 中央部—平地
- (イ) 西北部

中國山脈の東部に

迫まり、又中央部平野の邊緣に臨んで居る。河流は大なるものがな

(ロ) 東南部

紀伊山脈東西に連なつて居る。此の山脈は支那山系に屬し、四國より來りて紀伊を過ぎ伊勢・志摩を経て進んで中部地方の赤石山脈に連なる。本地方に於て大和の南は殊に高峻を極め所謂吉野群山をなし、山上岳・大臺原山等其の最たるものである。

河流は多くは此の山脈中に發し、東・西・南の三方に流れる。南に流れるを熊野川、西に流れるを紀の川と云ふ。熊野川は上流を十津川と云ひ、山上岳に源を發して紀伊山脈を横斷して南に流れ、所謂横谷をなし紀伊の國に入りて、有名なる湊八町の奇溪を作つて熊野川となり、新宮にて熊野灘に入る。

紀の川は上流を吉野川と云ひ、大臺原山に源を發し、交通の便大ならざるも、材木を紀伊に下すの便がある。紀伊に入りて紀の川となり、和歌山市の西北にて海に入る。

(ハ) 中央部

中央部は大阪灣頭より帶狀の平地をなして東北に連なり、近江盆地に到る。

此の平地は陥落して出來たものであるが、數條の小山脈南北に走りて、平野を區分して居

數多の小平野に分かる。

琵琶湖。

三方より彎入す。

る。河内と大和の境にあるが金剛山脈であつて、大和の東には笠置山脈が南北に起つて居る。金剛山脈の西は即ち大阪平野にして、人文發達の大地域をなし、金剛山脈と笠置山脈との間が奈良盆地にして古代の帝都のありし所、此の平野は北に延びて京都盆地に連つて居る。琵琶湖沿岸の平野を近江盆地と云ひ、京都盆地との間は比叡山脈によりて境されて居る。又伊勢海沿岸には南北に連なる伊勢平野ありて農業盛である。琵琶湖は周回六十里本邦第一の大湖である。沿岸は田園開け、汽船の往來繁げく、又源五郎鮎の産出を以て世に知られて居る。又湖畔は風景に富み、比良の暮雪、堅田の落雁、唐崎の夜雨、勢多の唐橋、粟津の晴嵐、矢橋の歸帆、石山寺の秋月は近江八景の稱がある。湖水は西南隅より吐き出されて勢多川となり、中流を宇治川と云ひ、下流は淀川となり大阪灣に注ぐ。運輸灌漑の便が多い。

此の中央平野は産業・交通・都邑の發達著しく、古來人文の最も開けたる地區をなして居る。
(ニ) 海岸

西に大阪灣、東に伊勢海、北に若狭灣ありて三方より深く彎入し、近畿地方の玄關をなして居る。此れ又此の地方の開けたる理由にして、大阪灣には大阪・神戸の二大港ありて本州

の門戸をなし、伊勢灣には四日市の良港あり、若狭灣には舞鶴軍港ありて北海を扼し、其の西方には天の橋立の勝地を控かへて居る。

又大阪灣の前面には淡路島横はりて播磨灘を分かち、本州との間に明石海峡・由良海峡をなし、四國との間は鳴門海峡をなして居る。此等の海峡は瀬戸内海の出入口となり、船舶の往來が絶えなす。(以上教科書による)。

(ホ) 金剛山

河内の東南隅に聳え、海拔三千九百七十三尺、山勢險峻を極む。正成の據りし千早城址は其の西側にある。當時八十萬の大軍を引き受けて賊を腦ませし正成の忠勤がしのばれる。其の西北に當つて赤坂城址あり、正成の誕生地亦其の附近である。

(ヘ) 笠置山

關西線中の笠置驛より十二・三町の所にあり、樹木鬱蒼として茂り、「行宮遺址」の四大文字が車中より山の一角に拜せらる。山中に文珠院・福壽院等の寺院がある。其のあたり巨石重なり山頂に後醍醐天皇皇居の蹟あり、建武の昔を物語つて居る。

(ト) 山上岳

海拔五千七百四十九尺、山勢急峻を極む。山上岳附近は峻峯相連なり、紀伊山脈中最も山深き所である。

(子)淀川

琵琶湖より流れ來れる宇治川は京都盆地に於て、賀茂川・桂川・木津川を合せ、攝津・河内の國境を西南に流れて淀川となる。淀川の下流は末流數分し、近年又長柄より新淀川の水路を開き、其の分岐點毛馬に閘門を設けて、洪水の水量を調節する様になりたれば、今日は淀川汎濫の害を受けることが尠ない。而して毛馬より分岐したる本流は更に南に流れて大阪市の北部を貫き、河口は安治川・木津川となつて海に注ぐ。淀川の流域は土地極めて平坦なれば水流至つて緩で、灌漑運輸の便が多い。

淀川の水

四、挿畫の説明

○琵琶湖と大津(五十七頁)

1、本畫は大津市の西長等山より大津市を眺めたる所である。大津市は後に山を負ひ、前は琵琶湖の水をたへ、煙水渺茫遠く對岸の連山を望むを得、風光の美觀客を醉はしむるものがある。

疏水の便。

2、琵琶湖の水面は海拔二百八十四尺、京都市の中央より高さこと百三十尺である。諸川四方より流れ込みて沿岸に近江盆地を作る。湖岸は出入に富み、湖面に沖島・竹生島が浮んで居る。

3、疏水は大津市の中程に見ゆる溝渠が疏水の入口であつて、三保崎より起り、三井寺の下を通り、夫れより一里餘の「トンネル」を掘りて山城の山科村に出で、再び十餘町の「トンネル」を経て京都市の南禪寺附近蹴上に至る。此の蹴上に舟溜所あり、此處より名高き「インクライン」となり、南禪寺前の舟溜所に荷物を運搬する仕掛となつて居る。此の疏水は大津より米其の他の貨物を京都市に送る用をなし、又水力電氣を起す用に供せられ、近世工事の大なるものである。

○天橋立(五十九頁)

1、宮津灣内に於て對岸江尻より一帯の砂嘴遠く南に突き出したるを云ふ。大天橋二十一町二十間、小天橋十二町五十間、南端は小海峡をなし其の間約五十間ある。白砂青松遠く連なり、白帆の處々に風を孕みたる其の風光は眞に畫けるが如く、日本三景の一に數へられて居る。

- 2、對岸に見ゆるは杉山。畫の左方に見ゆる村落は府中村で、前面の中央は田畑である。
 - 3、本畫は今松附近より撮影したものである。
- 四國の海岸よも望める鳴門海峡（六〇頁）

- 1、四國の撫養附近の海岸より鳴門海峡を見たる所、畫の向ふに見ゆるは淡路島である。
- 2、鳴門海峡の中間には畫に見る如く小島・淺瀬がある。中央の島は大毛島にして、大毛島の北端を孫岬と云ひ、淡路島の門岬と相對し鳴門海峡をなして居る。尙其の中央に中瀬と稱する淺瀬あり、此の中瀬と淡路島の門岬との間が小鳴門にして、中瀬と大毛島の孫岬との間が大鳴門である。潮の干満の際には海峡の内外兩側に水準の差を生じ潮流急となり、水は中瀬に激して沫を飛ばし大渦卷を生ず。其の岩礁に激して飛び上がる水柱は恰かも龍虎の戦へるが如く、魂魄爲めに飛びの思ひがある。
- 3、大潮の時は潮流の速さ一時間七・八哩にして、甚しき時は十哩乃至十一哩の速度を見ることがあり、眞に鳴門海峡の名に負かない。
- 4、本畫は其の潮流の速さを示さん爲めである。此れを近畿地方に入れたるは交通上近畿地方との關係が深いからである。

五、兒童作業

(一)、研究問題

- 1、近畿地方の地勢の特色を調べよ。
- 2、本地方の平地はどの邊にあるか、又最も人文の發達せるはどの邊と思ふか。
- 3、中央平地はいくつの盆地に分かれ居るか。
- 4、琵琶湖の人文に及ぼせる影響を調べよ。
- 5、海岸は出入多きか、又此の地方の門戸をなす所は何處か。
- 6、淡路島と本州・四國との間にどんな海峡をなして居るか。
- 7、本地方は地勢上から見て發展すと思ふか。

(二)、地勢圖を描かしむ。

山河の記入、

海岸の出入及重なる港記入、

六、教授上の注意、

- 1、本地方の地勢と關東地方又は中部地方の地勢と異なる點を明にすること。

- 2、中央帶狀の平地は人文發達の中心地域なるを明かにし、自然と人文との關係の如何に密接なるかを知らしむ。
- 3、海岸が出入に富めるは此の地方發展の大要素たることに注意すること。
- 4、教科書に盆地なる語を使用されあるは地理上の用語を知らしむると共に地勢の實狀を言ひ表はさん爲めである。

第三節 交通

一、主眼點

近畿地方の交通線は如何なる所に發達せるかを明かにし、我が國に於て本地方は交通の大に發達せる所なるを知らしむ。

二、準備

日本全國圖、近畿地方交通圖、山陰線の高架橋・淀川の下流等の繪畫、

三、教材解説

地勢西北と東南とに高く、中央に低地連なるを以て、鐵道は此の帶狀の平地を中心として

鐵路の中心地。

近畿地方の交通圖



發達し、又航路は西面の大阪灣に集まり、東面の伊勢海、北面の若狹灣これに次ぐのである。

一、鐵道の中心地は京都・大阪。

○大阪を中心とせる鐵道。

- 東海道線(東京—大阪—神戸)
- 關西本線(大阪—名古屋)
- 關西支線(木津—櫻宮)
- 關西城東線(梅田驛—天王寺)
- 阪鶴線(大阪—神崎—新舞鶴)

- 南海線(大阪—和歌山)
- 高野鐵道(大阪—長野)

○京都を中心とせる鐵道
東海道線(東京—京都—神戸)

山陰線 (京都—仁万)

奈良線 (京都—木津)

二、航路の中心地は大阪・神戸。

大阪・神戸は我が國の門戸にして、内海方面より近海への航路は元より、支那印度を始め、歐米及び濠洲への航路を有して居る。

○内國航路

大阪・下の關線、

大阪・内海線、

大阪・鹿兒島線、

大阪・沖繩線、

大阪・名古屋線、

大阪・宿毛線、

○支那・朝鮮への航路、

大阪・仁川線、

以上は皆神戸に寄泊す。

大阪・北韓線、

大阪・安東縣線、

大阪・大連線、

大阪・天津線、

以上は皆神戸に寄泊す。

○外國航路

歐洲線、

濠洲線、

米國線、

四、挿畫の説明

○山陰線の高架橋 (六十一頁)

1、此の鐵道は兵庫縣但馬國城崎郡の久谷驛と鎧驛間にある餘部の鐵橋である。高さ一三六呎、長さ一〇一九呎あり、工費三十二萬圓。

2、川は餘部川と云ふ小川であるが、此の小川の爲めに架したるにあらず、向つて左の山腹より汽車出で、向つて右の「トンネル」に入る傾斜の都合上架したるものである。

車中より谷間の民屋・田甫を瞰俯すれば眩惑する感がある。

3、小川の両側は田地にして、向ふに見ゆる人家の中高きは本村の學校分教場である。

4、本畫は山陰線の工事の難を示し、文化の恩澤を説明して居るのである。京都・鳥取間に「トンネル」六十を數ふ。

○淀川の下流（六十二頁）

1、本畫は府廳附近の西區新船津橋より寫せる所、出船入船の輻湊せる有様を知らしめん爲めである。如何に淀川が交通の便あり、且つ大阪の商業の殷盛なるかを物語つて居る。

2、船は多く二・三百噸位より五百噸位まで入る。

3、畫の右手の建物は住友倉庫、川の中央向ふに當り屋上に圓筒狀を戴けるは大阪商船會社、畫の左手に見ゆるは税關と税關の荷揚所である。

五、兒童作業

(一)、研究問題

1、此の地方は何故へに交通線がよく發達したか。

2、鐵道の中心地は何處か、其の線路をあげよ。

3、本邦鐵道の幹線と言はるゝは何線か。

4、航路の中心地は何處か、其の航路をあげよ。

(二)、近畿地方の交通圖を描かしむ。

重要鐵路記入、

重要港灣記入、

六、教授上の注意

1、東海道線と山陰線とは本邦の縦貫鐵道として重要な幹線なるを知らしめ、其他山陰線、關西線、北陸線等の重要な鐵路多きことに注意すること。

2、地勢との關係を明かにして交通線は多く中央平地に集中せることを知らすこと。

3、淀川の下流の挿畫によりて大阪の水運の便なることを知らしむること。

第四節 産業

一、主眼點

本地方は本邦に於て商工業最も殷盛なる地方なるを明かにし、其の他各種の産業發達の状況を研究せしむ。

二、準備

世界交通圖、近畿地方地勢圖、近畿地方産業圖（略圖）。標本（茶、菜種、綿絲、綿布、メリヤス、マツチ、西陣織、友禪染、清水焼等）。繪畫（大阪市全景、西陣織物工場、有田川沿岸の密柑畑、眞珠の採取等）。各産出高の統計表。

三、教材解説

本地方は各種の産業盛にして、大阪平野・伊勢平野・播磨灘沿岸平野等は米・麥・菜種等の農産に富み、大阪灣沿岸一帯の地方は工業殷盛にして、我が國に於ける最盛の工業地域をなして居る。大阪市の如きは煙の都と云はれ、東洋の「マンチエスター」と稱せられて居る。又京都も工業都をなして居る。商業は神戸・大阪を中心として内外貿易頗る盛に、諸方へ航路を發して居る。右の外東南山地は良材に富み、志摩の沿岸には眞珠の養殖盛である。

(1) 農業

○米

農業。

兵庫縣は耕地面積廣く、其の産出は本邦の主産地たる新潟縣に次ぐ、滋賀縣は又米の産に富み、品質好良にして近江米の名を知られて居る。伊勢米又好良である。

○麥

麥の主産地は關東地方であるが、近畿地方も亦相當の産額を有する。米の産地と同じく兵庫縣を第一とし、大阪府・三重縣等に多し。

○茶

茶の中心地は山城にして相樂・宇治地方が其の主産地である。山城の風土は溫暖にして又相當に濕氣を含めるを以て茶の栽培に適して居るのである。重に玉露、碾茶、番茶を産す。京都府の次ぎには三重縣が盛である。

○菜種

伊勢の平野を始めとし、大阪平野に産す。

全國菜種産額比較表（大正四年末）

北海道	十三萬八千八百一十一石
福岡縣	十二萬四千二百五十三石

第五章 近畿地方

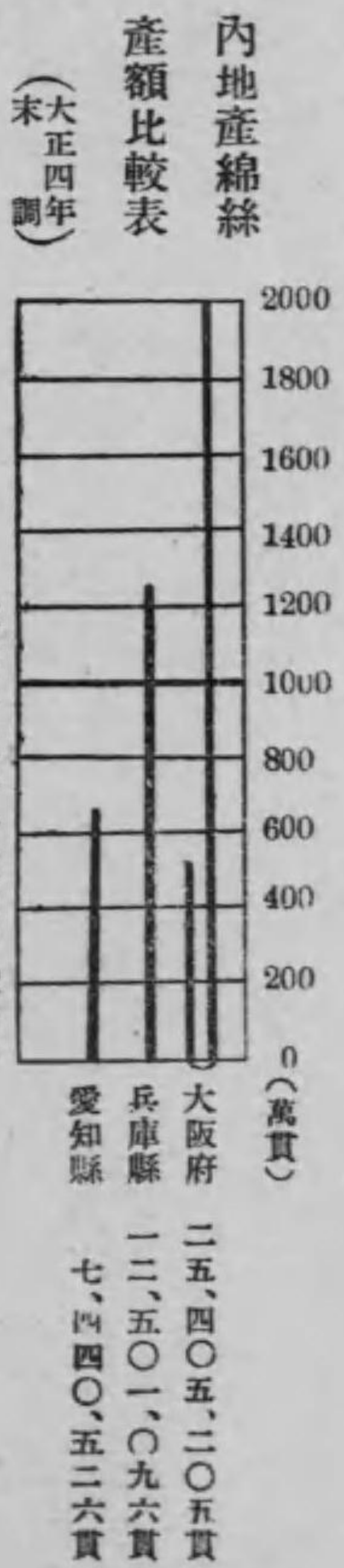
大阪の工業

鹿兒島縣 八萬一千五十九石
 三重縣 八萬〇百九十九石
 全國 八十七萬六千八百十九石

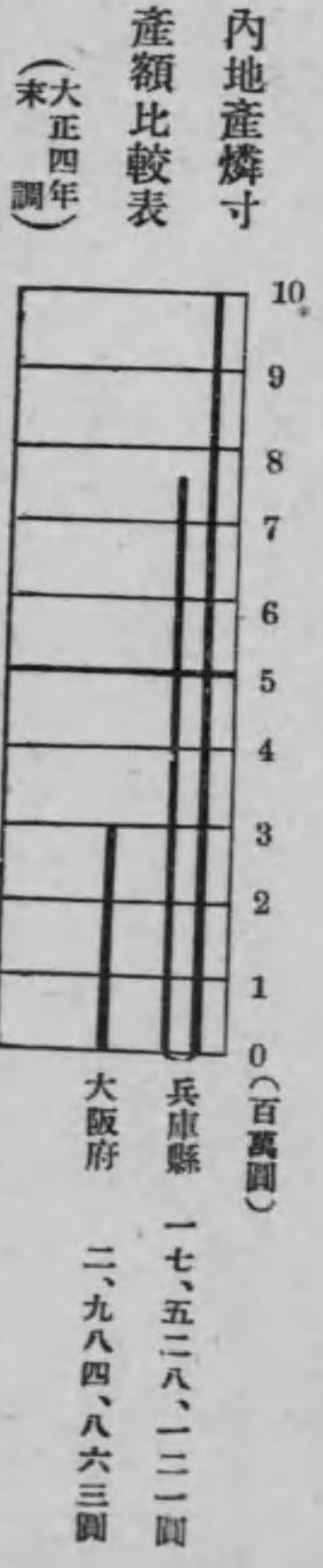
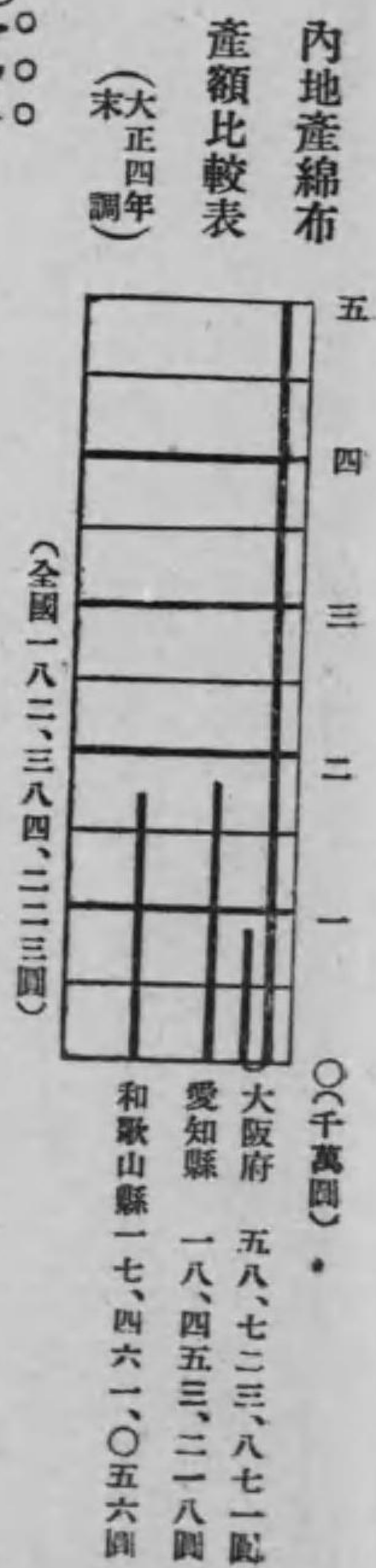
(2) 大阪の工業

大阪は本邦第一の工業地にして綿絲、綿布を始め幾多の工業品を出す。左に全國より見たる重なる工業品をあげると、

○綿絲



○綿織物



(3) 京都の工業

○其他メリヤス、肥料、藥品等、
 京都は關西に於ける絹織物の中心地をなし、其の製品の絶美にして技巧の精緻なる他の産物も企て及ばざる所である。關東に於ける桐生・八王子と相對し、彼れの多くは實用的製品に傾けるに反し、此れは又美術的製品に傾けるの觀がある。

京都の工業 特徴

○西陣織

羽二重は今日は福井縣に産出多く、京都は産出高に於て及ばざること遠きも、其の風格に於て京羽二重の名を得て居る。

羽二重、紋綾綸子等

紋羽二重・紋綾綸子も多く西陣より産し、品質好良にして、紋様・時代に適したるものを織り世の讚稱を得て居る。

平御召の産多く、其の技巧の優れたる關東の足利産の及ぶ所でない。其の風趣美にして模様鮮明なるは人目を喜ばせる。

○染物

京都は染物業に於て特色を有し、他の孰れの府縣も及ばない。徳川時代より發達著しく染物業品たる藍・紅花・茜等の研究に意を用ひ、又舶來品を使用する等優等品を用ひるが斯業發達の主因にして、又賀茂川の水能く染物業に適すと云はれて居る。

染物業發達の理由

友禪染の名は天下に普ねく、絹布友禪染・天鵝絨友禪染・毛斯綸友禪染等あり。縮緬友禪染の如き圖案配色の技精巧を極め、我國上流社會に愛用される。

○陶器

京都は又陶器の産出に富み、清水焼・粟田焼は京焼として廣く天下に用ひられて居る。清水焼は白色の緻密なる地質に藍色の模様を施して、清楚高雅なる焼物である。粟田焼は色は薩摩焼に似て薄黄色を呈し、此れ又清楚なる焼物である。

清水焼と粟田焼

林業

(4) 林業

本地方の太平洋岸は暖流なる日本海流洗ひ居るを以て氣候溫暖に且つ雨量に富んで居る。即ち紀伊・熊野地方は本邦中の最多雨の地に屬して居る。随つて植物能く成長し林業頗る盛である。

○吉野森林

奈良縣の南部は暖帶林に屬し、杉・松・檜・樅等鬱蒼として立ち、所謂吉野森林をなして居る。中にも吉野の土質能く杉の殖林に適するを以て其の産出特に多く、木理直通又木香を有するを以て、古來酒樽用として灘地方の酒造家に賞用されて居た。吉野川流域の材木は吉野川によりて和歌山港に搬出し諸方に運ばれる。

吉野杉

○高野森林

高野山森林は重に國有に屬し概して樹齡古し、高野槇の名最も表はれ、杉・松・樅・檜・梅と

高野槇

共に高野の六木と稱せられて居る。

○熊野森林

熊野川一帯の地方は暖帯林に屬し、杉・松・檜の森林をなし、毎年伐採して熊野川によつて下し、河口新宮港に堆積せる材木は其の量實に莫大なものである。熊野材（主に杉）として新宮より東京・大阪遠くは九州・臺灣方面に運び出される。

(5) 農業、

○蜜柑

紀伊半島の西海岸は氣候溫暖にして土質柑橘の栽培に適したれば蜜柑の産出甚だ多く、有田川沿岸地方が其の中心地である。蜜柑の外に金柑、夏蜜柑あり、共に品質佳良である。

(6) 水産業

紀伊半島の近海最も盛んにして鯉・鯨を重なるものとし、伊勢海には鰯・志摩半島の沿岸には真珠を産する。

四、挿畫の説明、

○京都にある絹織工場（六十四頁）

1、此の工場は京都織物株式會社の本社である、明治二十年の創立にかゝる。會社の組織は紋織・生織・再整・染色・機械・燃糸・包裝・選別の八部に分かれて居る。

2、本社は加茂川東岸に位す。中央にある黒き大建物が事務所及包裝部である。其の向ふの煙を吐ける煙突は紋織部の動力用のもの、左方の煙突は染色部の動力用のものである。其の煙突の前面に屋根の見ゆるが寄宿舎で、其の前面の白色の建物が倉庫である。又畫の最右方の白色の建物は食堂。前面を流れるが加茂川で、左端に荒神橋見へ、畫の後方は大文字山及び吉田山の連峯である。

○西陣織物工場の内部（六十四頁）

- 1、本畫は京都西陣にある工場の内部である。多くの女工が紋織其の他の織物をなせる所、糸を管に繰る所である。
- 2、織物は生織部は普通の織方と同じであるが、紋織部の方は圖案によりて、紋紙と稱するものを作り、此れによりて機械に變化を與へ、經糸を上下し、緯糸との間に自然に模様を作る様になつて居る。
- 3、右二の挿畫は京都に於ける絹織物の盛況を知らせん爲めである。

熊野材。

農業。

水産業。

○有田川沿岸の蜜柑畑(六十五頁)

- 1、畫の左方の山が蜜柑山である。有田川沿岸に至れば至る所の丘陵蜜柑山となるを見る、蜜柑は其の傾斜地に栽培す。
- 2、平地に栽培する時は蜜柑畑と云ふも、餘り平地には栽培せない。
- 3、前面の川が有田川で、下流は流れ緩にして船を通ずる。橋は安福橋である。

○蜜柑のより分け(六十五頁)

- 1、本畫は蜜柑買集商人が荷作りをなし居る所で大低屋外にてなす。
- 2より分けは大極上・飛切・松・竹・梅の五等位に分けるが普通である。名稱は所によつて異なる。
- 3、一箱の個数は六十個より百個位を入れる。箱の大小によりて違ふ。
- 5、上等品は東京に賣り出されるが、其の他名古屋、横濱、岡山、高松、浦鹽、大連、山海方面に搬ばれる。

○眞珠の採取(六十六頁)(地理教科書挿繪解説より)

- 1、本畫は志摩半島の南方英虞灣に於ける眞珠貝採取の有様である。
- 2、眞珠貝の採取は多くは養婦である。頭髮は磯髻に結び手拭にて包み、海中眼鏡をかけ、白木綿の襦衣と猿股を穿いて居る。
- 3、桶は眞珠を入れるので繩を付け、養婦の腰に結びつけ海に浮べ置き、海中に沈んで貝を採るのである。海上に浮遊する時間は嚴寒の時は二・三十分間である。
- 4、御木本幸吉氏人力を加へて眞珠を造殖する方法を案出し、今盛に養殖されて居る。其の方法は豫め眞珠貝の稚貝を養成し、滿三ヶ年後一旦採取し、核に學理的方法を加へ再び海中に放養すること四年、然る後採取する時は眞珠貝は自ら眞珠質を分泌して、玆に立派なる眞珠を形成するのである。

○大阪市内の工場(六十三頁)

- 1、本畫は砲兵工廠附近の高地より北區の一帯を望める所。煙突林立、黒煙天を覆へる狀況を示せるものである。日本第一の工業地たるを想はしめて居る。
- 2、市内各種の工場軒を並べ紡績工場では大阪紡績松島工場、攝津紡績分工場、東洋紡績工場等最も盛にして、其の外織物工場、マツチ製造工場、硝子製造工場、硫酸製造工場、鐵工場、造船所等數へ盡されぬ程である。本圖の煙突は重に紡績・鐵・硝子等の製造工場

尋常小學地理教授精案
である。

二三四

3、大阪府下の工場數(大正四年)

原動力を用ひるもの 千二百九十ヶ所、

原動力を用ひざるもの 七百五十二ヶ所、

○大阪にある紡績工場の内部(六十三頁)

今左に普通行はれる紡績の順序を示さんに

- 1、混綿機は印度綿又は亞米利加棉の各等級を混棉する所である。
- 2、打棉機は棉を打ち塵埃を取除き、菰狀の棉帶を作る機械である。
- 3、梳棉機は棉の纖維を梳り塵埃及び短き纖維を取除き棒狀の棉を出す機械である。
- 4、練條機は數本の棉棒を合せては延し、合せては延し、其の大きさの平均、纖維の平行と同時に塵埃を取去る機械である。三度練條機にかける。
- 5、粗紡は棒狀の棒を延しては撚をかける機械である。此れも三度やる。
- 6、精紡機は適當の大きさに引延し適當の撚を掛けて初めて糸になるのである(挿畫)。
- 7、撚糸機は二本、三本、四本、五本と糸を合せて撚をかけ撚糸を拵へる機械である。

- 8、総機は出來上がった糸を総にする機械である。
- 9、棉糸紡績には太糸、中糸、細糸の三種類がある。

太糸は 三番手から十六番手迄、

中糸は 二十番手から三十番手迄、

細糸は 三十手から百番手迄、

五、兒童作業、

(一)、研究問題

- 1、本地方に於て農業の行はれる所はどの邊か。
- 2、大阪が日本第一の工業地となつた理由を調べよ。
- 3、其の工業の殷盛なる狀況を述べよ。
- 4、京都の工業の特色を研究せよ。
- 5、南部地方に林業盛なるは何故へか。
- 6、林産の重なるものをあげよ。
- 7、水産業の狀況を調べよ。

(二)、産業圖を描かしむ。

(三)、諸標本の自由研究、

六、教授上の注意

- 1、大阪の工業につきましては諸統計・繪畫により十分に其の盛況を了解せしむること。
- 2、教科書は本文と挿畫の連絡に注意され居るを以て、其の點を忘れぬこと、殊に挿畫の取扱ひに力を用ひることが大切である。
- 3、京都の織物の特色を明かにすること。
- 4、林業・農業の取扱ひは地勢・氣候との連絡に注意すること。
- 5、本地方は實に日本の商・工業の大地區をなし居ることを明かにし、其の實況を十分に了解せしむる様努力せねばならぬ。

第五節 都 邑

一、主眼點

近畿地方は人文の發達著しく、大阪・神戸の如き商・工業の中心地あると共に、京都・奈良の

如き歴史的都府あり、其の他各種の都邑に富んで居る。即ち此等の都邑發達の理由を調べ、其の特色を研究するが主眼である。

二、準備

近畿地方掛圖、繪畫(京都御所・二條離宮・平安神宮・北野神社・知恩院・本願寺・金閣寺・桃山御陵・宇治の茶摘・大阪港の棧橋・大阪城・神戸港・湊川神社・須摩・舞子・春日神社・大佛殿・和歌浦・那智瀧・外宮・内宮)、標本(縮緬・麻布・西陣織・麥粉・マッチ・綿ネル・黒江塗等)

三、教材解説

1、滋賀縣

○長濱

琵琶湖の東岸に位し、縮緬の産多く、濱縮緬の名天下に知られて居る。糸太く縮み大にして衣服地・帶等として廣く愛用される。

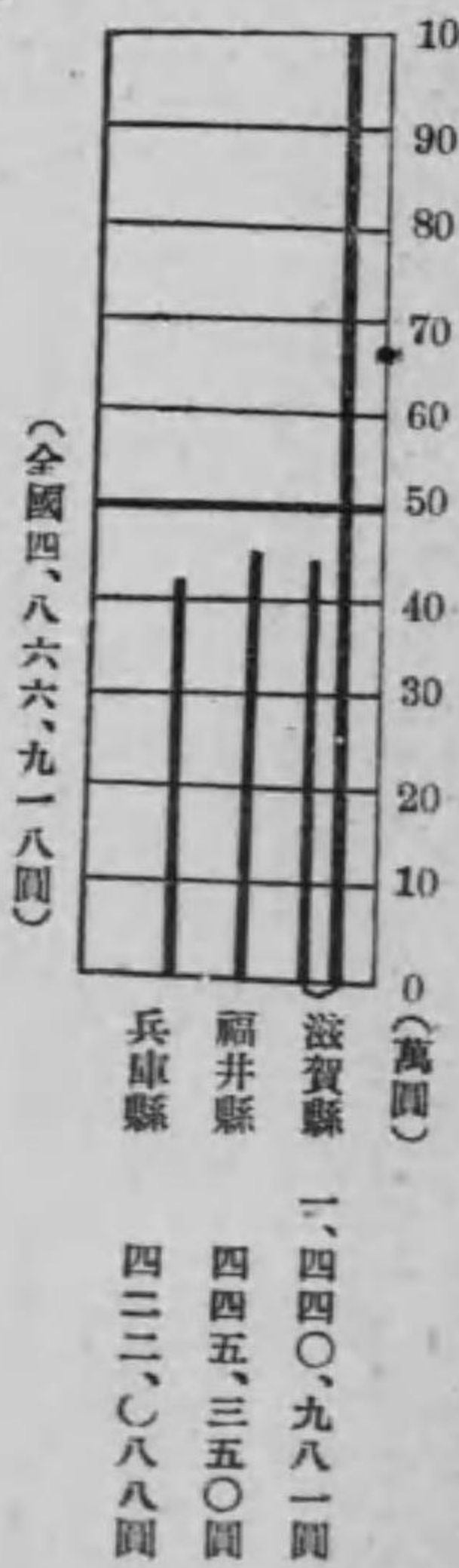
○麻織物

平野の南部に多く産し、日本一の産額を有する。

○近江の人は商賣の機才に富み、富山の賣藥行商と共に其の足跡海内に逼り、近江商人として

内地麻織産額比較表

(大正四年末 調)



知られて居る。

○大津

琵琶湖の西南隅に位し湖上航路の起點をなし、米・麻布を集散する。

○延暦寺

桓武天皇延暦七年傳教太師に勅して伽藍を比叡山頂に造營し王城の鎮護となさしめらる。織田信長山徒の猖獗を惡み、元龜二年四方より比叡山を攻圍し、堂宇僧坊を燒き拂ひ男女僧俗を合せ殺戮した。此より山中頓に寂然、今の堂宇は寛永中家光の再建せしものである。

2、京都府

○京都

賀茂川に臨み東京より十一時間行程の所にある。人口六十萬・桓武天皇以來の帝都にして、

京都の特徴

古蹟多く美術・工藝の大中心地をなし、又交通線が集中してゐる。

○京都の特徴

1、歴史的都府、

1、美術工藝の中心地、

3、學術の中心地、

○京都御所

桓武天皇延暦十三年遷都の工を起させ給ひ、翌年此の地に遷らせ給ふた。爾來皇居は幾度か炎上し、吉野時代を経て織田・豊臣兩氏に至り皇居の造營に力を致せしが、其の後又炎上し、現在の宮殿は安政三年造營されしものである。

○二條離宮

永祿二年に築かれた城である。現時のは慶長七年徳川家康の修築せるものである。明治十七年に離宮となる。

○北野神社

北野天神と云ひ、菅原道真を祀る。現在の社殿は慶長十六年豊臣秀頼の造營せるもので、特

圖街市都京



別保護建造物である。

○知恩院

淨土宗の總本山である。圓融天皇の時法然上人叡山より來り開きし所、徳川家康に至り大に土地を開き大伽藍を造營した、即ち今日現在せるものである。方丈の廊下を鴛張と云ふて居る。

○本願寺

東西の本願寺あり、西本願寺は眞宗本派の本山である。親鸞上人を開祖とす。顯如上人の時に今の地に移つた。東本願寺は慶長七年に家康本願寺の勢力を殺がん爲めに、今の地に寺を建て、教如上人に與へしに起る。

○金閣寺

元と西園寺家の山莊であつたが、足利義滿之を請ひ受けて退隱の所とした。應永四年に金閣を造營した、金閣は三層閣にして金箔にて鍍む、特別保護建造物である。

○桃山御陵

明治四十五年七月三十日明治天皇御崩御あり、同九月十四日天皇の靈柩を此處に葬り奉る。御陵域は前面七十間、奥行八十五間、面積約六千坪あり、御陵の御前に額づけば先帝の御高德の御事ども自ら思ひ俤ばれる。

○桃山東御陵

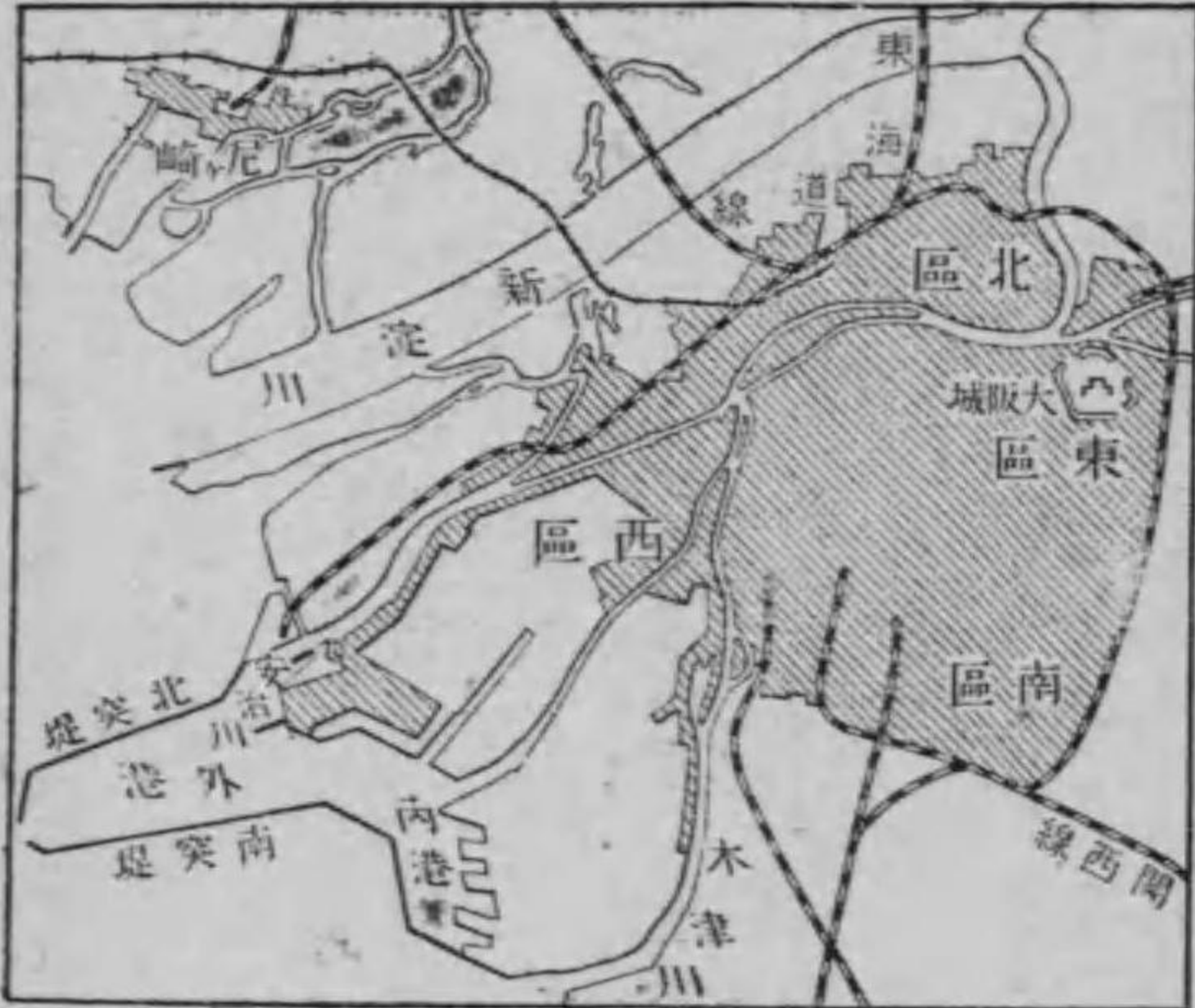
昭憲皇太后は大正三年四月十一日御崩御あらせられしを以て、地を同じ桃山に相し此處に葬り奉つた。御陵地の規模は桃山御陵に比して稍々小である。

3、大阪府

○大阪

淀川口に臨み人口凡百五十萬東京に次げる我が國第二の大都會である。市内は東・西・南・北の四區に分かれ、運河四通八達し商工業殷盛

圖街市阪大



にして、水の都・煙の都と云はれて居る。

大阪の特徴

- 1、商業の中心地—内外貿易盛、
 - 2、交通の中心地—鐵路及び航路集中、
 - 3、工業の中心地—綿絲、綿織物、マツチ、メリヤス、肥料、藥品、鐵器、造船業、
- 此の如く商工業の大中心地をなすに至りし理由を調べよ。
- 1、位置好良なること。
 - 2、交通の中心地たること。
 - 3、内地に豊富なる貨物を有すること。
 - 4、外は亞細亞より南洋方面、進んで歐米方面に販路を有すること。
 - 5、商人機才あること。

○堺

大和川の南岸に近くあり、段通・刃物・清酒の特産物を産出する工業地である。
4、兵庫縣

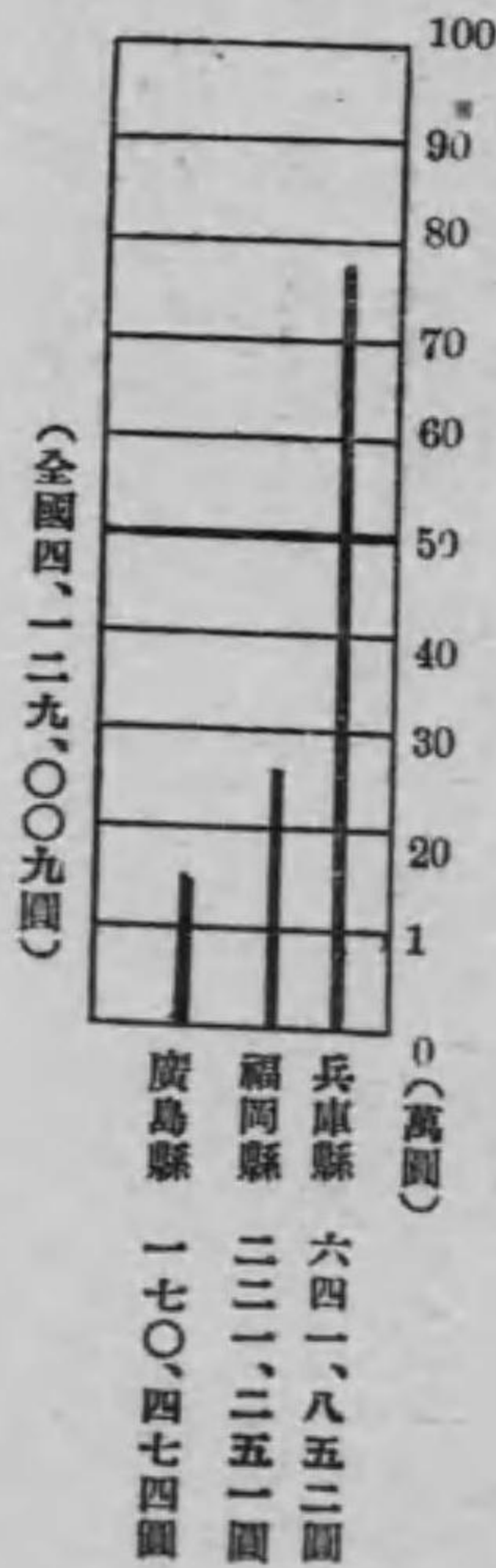
○清酒の産地

大阪より西し神戸に至る間を灘地方と云ふ、清酒の産を以て知られて居る。此の地方に清酒業の盛なる理由は、(大日本地理集成による)

- 1、水質の好良なること。
- 2、米質の良きこと。
- 3、氣候良好なること。
- 4、酒の需用地を附近に控かへ居ること。
- 5、海岸なれば運搬の便よきこと。

内地産清酒
産額比較表

(大正四年
末 調査)



○神戸

大阪灣の北岸に位し、人口五十萬、横濱と共に我が國の二大開港場である。船舶の出入多

きことは驚く計りである。此の地は特に輸入の多きを以て知られて居る。

特色

- 1、航路集中すること
- 2、外國貿易盛なること

輸出品||綿絲、綿布、銅、
輸入品||綵綿、鐵、米、

神戶市街圖



神戸港輸出入額累年比較表

本邦著名の輸入港（大正四年調）

神戸	二六、九〇〇萬圓餘
横濱	一四、〇〇〇
大阪	五、〇〇〇
門司	二、三〇〇
四日市	一、七〇〇
長崎	八〇〇

重なる輸入國（大正四年調）

英領印度	一四、七五〇萬圓餘
合衆國	一〇、二五〇
支那	八、五八四
英國	五、八〇八



本邦著名の輸出港（大正四年調）

横濱 三〇、五九〇萬圓餘

神戸 一九、七五〇

大阪 九、三八〇

門司 一、八六〇

重なる輸出國（大正四年調）

合衆國 二〇、四一四萬圓餘

支那 一四、一二〇

英國 六、八四九

佛國 四、二二九

2、工業の中心地

造船業（川崎造船所）、紡績、麥粉、マツチ。

○湊川神社

楠木正成を祀る。門を入れれば落々たる長松の下に碑あり、高さ一丈。此れ水戸黄門光圀の

修せし「嗚呼忠臣楠子之墓」である。湊川合戦の址は今市中般盛の所となる。

○須磨

神戸より西すれば此のあたり須磨の海岸にして、水碧沙明、風光明媚にして別荘散在し、關西の勝地をなして居る。

○舞子

白沙の間に松林連なる。松は高さ二・三間に過ぎない。高きは躍れるが如く、低きは臥するが如きである。南明石海峡を隔て、近く淡路島と相對し、景色畫けるが如く、須磨の風光と並び稱せられて居る。

○姫路

播磨灘沿岸平野の中心地をなし、此に第十師團がある。名高さ白鷺城は豊臣秀吉の築きし城にして、五層の天主閣は屹然として高く半空に聳えて居る。

○生野鑛山

姫路より鐵路によつて北し、但島に入れば西方に生野鑛山がある。銀・銅の産出が多い。兵庫縣産出高は銀二百十萬匁、銅四百十七萬九千斤の多額に上つて居る。

○赤穂

岡山縣に近き海岸にある、瀬戸内海沿岸地方は雨量少なく製鹽業に適し、赤穂鹽の名は古くより聞へて居る。此の地は元と淺野家の所領。大石屋敷・大石櫻等は元祿の昔を偲ばせる。

5、奈良縣

○奈良

奈良盆地の北部に位し、奈良時代七代七十餘年間の帝都たりし所なるを以て、古蹟多く歴史的都府として來り訪ふものが尠なくない。

○正倉院

聖武天皇の冥福を祈らん爲めに、孝謙天皇及び光明皇后より大佛に獻納されし御物を奉藏せる寶庫である。古來勅封にて開閉頗る嚴重にして、毎年一度宛曝涼開檢がある。東大寺は再度火災に罹りしに係らず、多くの寶物現存せるは邦家の爲め仕合せである。

○奈良帝室博物館

春日野大鳥居の北東にある。明治二十七年の竣工にて、古代の佛像の粹を蒐められ、名工

の繪畫・彫刻と共に學術上の價値ある珍品が多い。

○東大寺

寺域は頗る廣く方八町に亘る。聖武天皇佛法興隆至願を以て、天平十三年に天下總國分寺として建立された。

大佛殿は天平勝寶三年に成就した。後數度の兵燹に罹り露佛となつたが、徳川時代に至り寶永五年に落成したる建物が現存のものである。

應舍那佛は聖武帝の時に出來たものである。高さ五丈三尺五寸、面の長さ一丈八尺もある。

○神武天皇陵と橿原神宮

神武天皇の御陵は畝傍山の東北麓にあり、其の東南麓に橿原神宮がある。神宮は明治二十三年の創建にかゝり、神武天皇及び五十鈴姫皇后を祀り奉る。此の地は我が國創業地として國民の尊崇深き所である。

○法隆寺

奈良の西南にあり、推古天皇十五年に聖德太子の建立されし大伽藍である。其の金堂は推古式建築として本邦最古の建物である。金堂の内には有名なる壁畫・佛像を有し、世界の珍

品として其の保存法に意を用ひて居る。

○吉野

後醍醐天皇の行宮を定められし所にて、其の行宮に當て給ひし吉水院は今尙存じて當時を偲ばせて居る。如意輪寺には天皇の御陵がある。吉野は又櫻花の名所である。

6、和歌山縣

○高野山

紀の川の南・和歌山の東に當つて高野山の靈場がある。其の金剛峯寺は嵯峨天皇の弘仁七年、僧空海が勅を承けて建立せしものである。

○和歌山

紀の川口にあり、綿ネル所謂紀州ネルの産全國の首位に位し、海内は元より朝鮮支那方面に盛に輸出される。

○和歌浦

和歌山の南方一里許の所にあり、前に洲崎横はり後に名草山を負ひて風景絶佳である。

○黒江

和歌山の南にあり、漆器の産多く黒江塗の名全國に知られて居る。和歌山縣の年額産は七十九萬圓に上れるが、其の大部分は黒江産である。

○新宮

熊野川口にあり、南海方面の一名邑にして材木の集散地である。

○那智瀧

新宮の西方にあり、高さ五十餘丈、晴天には遠く熊野沖より望むを得べく、一偉觀を呈して居る。

7、三重縣

○宇治山田

伊勢平野の南部に位し、神宮の所在地にして天下の人集まり詣づ、市街爲めに榮へ、旅宿軒を並べて居る。即ち神都として發達せる都府である。

○津

伊勢平野の中央海岸にあり、阿漕浦に臨み古來船舶の出入多きを知られて居る。「伊勢は津でもつ津は伊勢でもつ」の俗語は双方の地理的關係を示して居る。

○四日市

伊勢平野の北部に位し、伊勢海の要港をなし内外貿易盛にして、船舶の出入が絶えない。
四、挿畫の説明

○平安神宮（六十七頁）

- 1、平安神宮は明治二十八年、平安遷都一千百年記念祭ありし時に建立して桓武天皇を祀る。殿堂は其の大極殿に模したるものである。
- 2、前面廣庭より左右にある龍尾道（畫中參拜人の昇降し居る石段）を上がり、正面の龍尾壇に至る。正面に九段の石階あり左右に同じく東階西階の石階ありて拜殿に進む。
- 3、拜殿より左右に廊下ありて、向つて右手の蒼龍樓・左手の白虎樓に續く、昔の大極殿を縮めたる儘の構造である。
- 4、昔の大極殿遺址は今の朱雀村聚樂廻の瓢箪池と云へる所にある。

○宇治の茶摘（六十八頁）

- 1、宇治地方は氣候溫暖にして、最も茶の栽培に適するを以て茶畑に至る所に見る。製茶は重に玉露にして品質頗る佳良である。玉露を製するには挿畫にある如く若樹の茶園に籬を

覆ひ、日光を遮ぎること一週間計りにて摘み採るのである（畫は乙女の茶摘を示す）

- 2、摘みたる茶は蒸烹して冷却し、焙爐にて揉み之を乾燥せしめたる後、篩選し、又篩にて精選するのである。

○大阪港の棧橋（六十九頁）

- 1、棧橋の長さは約四町あり、一千噸位の船を横付にす。今多數の船客が船に乗り下りする所である。
- 2、左手向ふの建物は荷物置場である。又前面は荷物揚場である。本圖は大阪港の盛況を知らせん爲めである。
- 3、大阪築港は北突堤は安治川口より、南突堤は木津川口より起りて海中に突出し、兩堤頭相向ひ凡そ百間を隔て、相對して居る。此處が即ち港口であつて、棧橋は其の港頭に位置して居る。棧橋より直ちに電車の便がある。

○大阪市街の一部（六十九頁）

- 1、本畫は大阪市街四ツ橋停留所を寫せる所である。電車縦横に通じ、軌道は何へも通じ得る様になつて便利である。市中最も往來頻繁なる所である。

- 2、畫の左方の大建物は市内電鐵四ツ橋事務所である。
- 3、電線又網の如く張られて居る。即ち本畫は大阪市内交通の殷盛なることを想像せしむるに足る。

○神戸港（七十頁）

- 1、本畫は諏訪山より神戸港を見たる所である。神戸市の殷盛と船舶の出入多きを示さん爲めの挿畫である。
- 2、畫中の左方にある大工場は川崎造船所にして、幾多の工場莊大なる起重機は造船業の盛況を物語つて居る。
- 3、左方には第一突堤より第四突堤迄ありて各突堤には上屋あり貨物の倉庫となる。尙各突堤には軌道來りて貨物は直ちに汽車（海陸線）によりて東海線に連絡する様になつて居る。神戸港が如何に貨物の集散多きか驚く程である。向ふの一直線に見ゆるは防波堤である。
- 4、税關は第四突堤と第三突堤（突堤は畫に向つて左より數へる）の中央後方にある。港務部は市中で畫の中央後方にある。

- 5、本畫は川崎造船所の所在地と突堤との内の一部分を寫せる所であるが、最も船舶の出入多き所である。

○春日神社（七十二頁）

- 1、春日山麓にあり、藤原氏の氏神である。元明天皇の和銅年間に不比等が常陸鹿島神を此の地に移し奉つた。明治四年官幣大社に列せられた。境内三十萬六百坪、古來伊勢神宮、八幡社と本社を合せて日本三社と稱し世人の信仰が深い、燈籠の多きと神鹿の嬉戯とは參詣人の異様とする所である。
- 2、樓門は南面し、廻廊の長さ百五間あり、丹楹朱欄燃ゆるが如く、又境内老杉古松鬱蒼として立ち、自然に神威の尊さを感じしむる。本殿の祭神は四柱の神である。

- 第一殿 武甕槌命
- 第二殿 經津主命
- 第三殿 天兒屋根命
- 第四殿 比賣大神

○和歌浦（七十三頁）

- 1、畫中の右手の建物は拜殿又は觀海樓とも稱せられて居る。拜殿の後方の森は妹背山である。
- 2、中央の塔を多寶塔と云ひ、佛舍利を入れたる所
- 3、左方に見ゆる家は芦邊屋旅舎にて和歌浦にての一等旅館である。
- 4、本畫は和歌浦風光の美を味はせん爲めである。

五、兒童作業

(一)、研究問題

- 1、近畿地方の都邑は重に如何なる所に發達せるか。
- 2、近畿地方の各都邑興起の理由を調べよ。
- 3、各都邑の特色をあげよ。(歴史上の都邑、商業地、工業地、)
- 4、京都と大阪との異なる點を調べよ。
- 5、神戸港の狀況及其の重なる輸出入品をあげよ。
- 6、關西人の氣質はどんな風であるか。

(二)、描圖

都邑名と其の特徴の附記

(三)、繪畫、標本の自由研究

六、教授上の注意

- 1、教科書が都邑の位置を示すに標準物を明記せるは注意すべき點である。此れ第一篇都邑取扱ひに於て述べし通り甚だ大切なることである。
- 2、本地方の都邑は其の特色明瞭なるを以て的確に此れを知らすること。
- 3、本地方の都邑を取扱ふ場合には關東地方の都邑と比較對照すること。

第六節 近畿地方概括

一 主眼點

本地方は何れの地區に最も人文發達せるか、中央帶狀の平地を中心として凡ての要項を纏むるが主眼である。

二 準備

近畿地方掛圖、繪畫標本、(前節にて使用せるもの)

三、教材

1、本地方の地勢の特色を調べよ。

(イ) 西北部

(ロ) 中央部

(ハ) 東南部

2、中央平地は又どんなに分かれるか。

3、中央平地に行はるゝ重なる産業を調べよ。

(イ) 農業(農産物)

(ロ) 商業(商業盛なる理由)

(ハ) 工業(工業盛なる理由)

1、各種織物の産地

2、綿絲の産地

3、マツチの産地

4、陶器、漆器の産地

4、中央平地に發達せる各都邑の特色をあげよ。

1、商業地

2、工業地

3、歴史的な中心地

4、學術の中心地

5、政治の中心地

5、中央平地には如何なる交通線發達せるか。

1、重なる鐵道線路

2、陸上交通の中心地

3、海上交通の中心地

4、重なる航路

6、西北山地と東南山地に於ける産業及び都邑を調べよ。

7、關西人の氣質を考察せよ。

第六章 中國地方

第一節 位置

一、主眼點

中國地方は本州の西部を占めて、朝鮮支那に對し、古くより我が國文化輸入の門戸たる所以を明かにするにある。

二、準備

大日本帝國地圖、中國地方圖

三、教材

1、四周

中國地方は本州島の西部に延びて、一大半島狀をなせる狹長の地區である。東西の延長が約九十里、南北の幅最も廣き所で約三十里位である。

北は日本海に面し、古くから韓土との交通あつたが、良港灣に乏しきを以て、發達が遅れ

勝ちである。

南は瀬戸内海を隔て、四國に對し、東は近畿地方、西は九州との交通便利なれば大都會も此の沿岸に多し。

2、區分

山陽地方—岡山・廣島・山口の三縣

山陰地方—島根・鳥取の二縣

四、兒童作業

(一)、研究問題

1、本地方が四國・九州・朝鮮に接することはどんな利益あるか

2、山陰地方が古くより朝鮮と交通し居しは何故へか

(二)、中國地方の略圖を描き四圍の地方を記入せよ

第二節 地勢

一、主眼點

中國山脈が本地方の氣候・産業・交通の發達上に如何に影響するかを明かにするにある。

二、準備

中國地方地勢圖、米子より大山を望む繪畫

三、教材解説

1、地勢の一般

本地方の脊梁をなせる中國山脈は中央より少しく北に偏して東西に走り。餘脈は南北に傾いて山岳丘陵重なり、一帯の高原性の地勢をなして居る。此の山脈によりて地勢自ら南北の二面に分かれ、南を山陽地方・北を山陰地方と云ふて居る。地質は花崗岩より成るを以て浸蝕され易い。

河は瀬戸内海斜面と日本海斜面とに流がる。南流するものには旭川・太田川等ありて此等の諸川の下流地方には小平野をなして居る。江川は中國第一の長流にして、三次盆地に集まりし水は西北流して中國山脈を横ぎり石見國にて日本海に入る。全長四十里、下流は舟楫の便がある。

海岸を見るに、内海方面は出入島嶼頗る多く良港に富んで居る。東に播磨灘あり、其の西

山脈。

河川。

地勢の特徴

に兒島半島突き出て居る。此れより廣島灣に至る間、島嶼最も多く、恰も碁石を並べたるが如く應接に違がない程である。周防灘を過ぐれば下の關海峽ありて我が國西面の關門をなして居る。日本海方面は一帯に單調にして、唯だ中央に島根半島ありて内側に宍道湖・中海を抱けるのみである。従つて良港が少ない。

○地勢の特徴

- 1、地勢一帯に、高原性を帯ぶ。
- 2、河流は南北に分流す。
- 3、平野少なく諸川の下流地方に小平野あるのみ。

○中國山脈と自然・人文との關係

- (イ) 南北に分水界をなし、河川の大なるものが少ない。
- (ロ) 平野の小なるものが散在す。
- (ハ) 南北兩方面の氣候を左右す。
- (ニ) 南北の交通を妨げる。
- (ホ) 山陰・山陽兩方面の人情に關係す。

○大山

白山火山脈に屬する休火山である。其の最高峯を御山と云ひ、高さ六千二百尺、中國第一の高峯である。絶頂よりの眺め濶大で、北方日本海上に隱岐島を見、西南に三瓶山を見る。裾野は所謂大山原で牧畜が盛である。

○旭川

西大川と云ひ、美作より來りて兒島灣に入る。全長三十七里、中流以下は舟筏の便が多い。

○太田川

廣島縣の北部に發源し、廣島を過ぎて海に入る。全長三十三里、下流は舟筏の便が多い。

○中海

宍道窪地の東部を占むる一の澤湖である。島根半島と夜見濱の大砂嘴とにより外海と劃されて居る。周回十六里十一町、我が國第四の大湖である。

○宍道湖

一大淡水湖で水は大橋川によりて中海に流れ落つる。周回十一里三十三町、我が國第六の大湖である。

○隱岐

出雲の西北約二十里の海上にある一群の火山島である。島前・島後の諸島よりなる。烏賊の産が多い。後醍醐天皇の行在所であつた黒木御所址は西島にあり、後鳥羽上皇御遷幸の址は中の島にあり、承久の昔・元弘の當時を偲ばせ、遺恨禁する能はざるものがある。

2、氣候

日本海方面と内海方面とは雨量が大に違ふ。山陰地方は冬季西北の風強く、對馬海流上の濕氣を中國山脈に吹き當て降雪を多からしむ。又海上の風波が荒い。之れに反して山陽地方は四方山脈を以て圍まれ、北より送り來る濕氣は中國山脈に、南より送り來る濕氣は四國山脈に遮へざられて内部に到達せず、雨量が甚だ少ない。又氣候溫和である。従つて内海方面は日本海方面に較べて人文の發達が著しい。

四、挿畫の説明

○米子の海岸より大山を望む(七十五頁)

1、本畫は米子の西北海岸より遠く大山を望んだ圖である。

2、前面の海は米子深浦として中海の東南隅で波靜かで、風光に富んで居る。

山陰地方と對馬方面との

- 3、雲表高く聳ゆるは大山である。
- 4、中海に沿ふ市街は米子町である。町の中程に大阪商船會社の倉庫が見へる。
- 5、右端に近き森は川口神社、左の森の所に棧橋がある。
- 6、本畫は山陰地方の風光の美を味はせん爲めである。

五、兒童作業

(一)研究問題

- 1、中國山脈の人生に及ぼす利害を考究せよ。
- 2、中國地方に長大なる河川なきは何故へか。
- 3、山陽地方と山陰地方との地勢を比較せよ。
- 4、山陽地方と山陰地方とに氣候の差違あるは何故へか。

(二)中國地方の略圖を描かしむ。

山脈・河川の重なる港灣記入

六、教授上の注意

- 1、中國山脈を教授の中心として常に山陰・山陽兩方面の對照をなすこと。

2、中國山脈が山陰・山陽兩方面の人文發達に如何なる影響あるかを考へて、此れを力説すること。

第三節 産業

一、主眼點

中國地方産業の概要を調べ、以て自然と産業發達との關係を研究せしめんとするのである。

二、準備

中國地方地圖、隱岐のいか釣船及岡山附近に於ける花蕚の荷造りの繪畫。鯛、牡蠣の實物、疊表花蕚の標本等。

三、教材解説

農業・牧畜・及水産業は本地方の主産業であるが、日本海方面と瀬戸内海方面とはその趣を異にしてゐる。

1、農業

山陽地方は平野比較的に廣く氣候も溫和であるから、農産物の種類に富み産額も多い。山

米。

陰地方は平野狭く、且つ冬季西北風に吹き荒される頃は天候定まらずして、農産も豊でな

麥。

岡山・山口の二縣殊に多く、品質亦佳良で備前米・防長米として市場に持てはやされてゐる。鳥取縣の米は産額が少いが、質の良好なることは以上二縣にもあたらな

2、牧畜
岡山の平野に多く産し、次に廣島縣に多く産する。

牧牛所。

本州東北部地方の牧馬に對し、中國山脈の地方は牧牛地として著はれてゐる。各所に牧場の大なるものがあるが、殊に廣島縣北部七塚原（三次の盆地に近い）には本邦唯一の種牛場が設けられてある。又鳥根縣には官立種馬所を置いて、共に産牛馬の改良を圖つてゐるが、未だ産額はあぐるに足らぬ。

○全國各地牧牛數

全國 一、三八七、九二二頭

廣島縣

九九、三四三頭

岡山縣

九六、一六三頭

兵庫縣

八八、〇五二頭

鹿兒島縣

八五、五九七頭

鳥根縣

七八、六一一頭

大分縣

七四、五八七頭

長崎縣

七三、一八三頭

山口縣

六五、五六二頭

3、水産業

漁業

内海は好漁場。

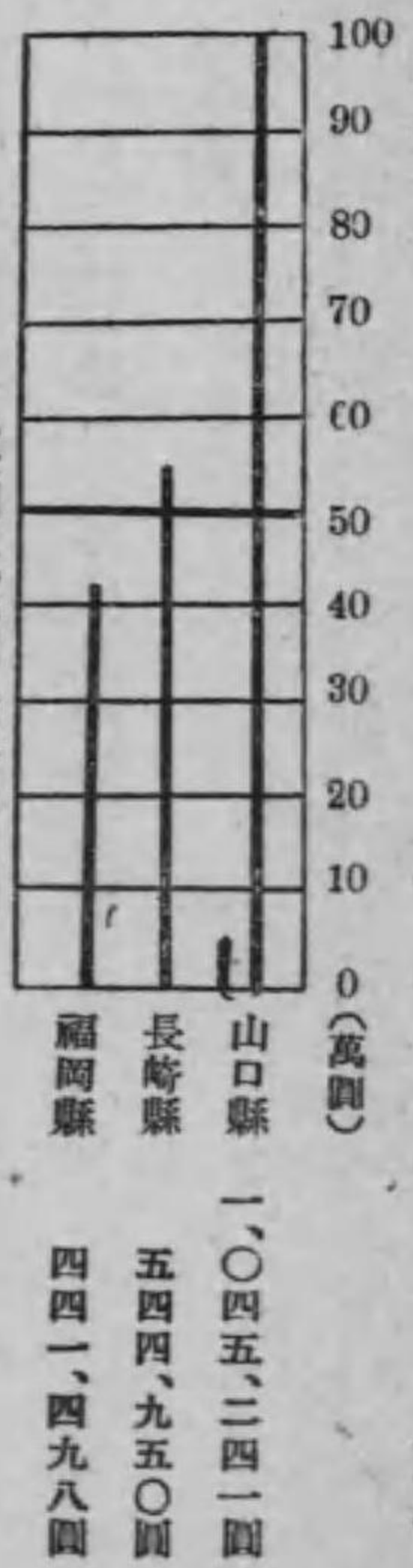
瀬戸内海面は天與の好漁場にして漁獲にも乏しくない。之れ海岸屈曲に富み、島嶼多くて青松の蔭あり、又暖流の餘波は暖性魚を送り來り、且海澄穩かなるを以て漁獲には甚だ好都合である。

北方日本海には對馬海流の流に沿ふて游泳する魚類多く、殊に西北の方「リマン」海流と對馬海流の衝突地點は寒暖兩棲魚族が來集するから、遠洋漁業を企つるものが多い。水産物の最も多いのは山口縣で、全國漁獲物産額の第三位を占めてゐる。中でも山口縣の鯛は産額が最も多

鳥根縣の近海は魚族に富み、隠岐の近海は鯛の産額が殊に多い。隠岐鯛の名は遠く海外

内地産鯛産額比較表
黒鯛ヲ除ク

(大正四年末 調査)



廣島の牡蠣

に迄喧傳せられ、神戸・大阪・長崎を経て盛に支那に輸出せられる。廣島灣には牡蠣の養殖盛で、養殖場の區域は沿海十里に及んで居る。その形の大なるを以て著はれ、(牡丹牡蠣) 毎年冬期には牡蠣船を東國に迄出して、船中で調理して客に饗するのである。

製鹽業

瀬戸内海の沿岸は砂濱連り傾斜緩かに、且つ四圍の山脈は濕風を遮つて海波穩かに雨も少なく、加ふるに潮汐の干満の差が大であるから製鹽上には誠に便利である。山口縣の三田尻、岡山縣の味野等は製鹽の中心地である、その産額も山口縣は香川縣に次ぎ本邦第二位である。

4、工業

本地方の工業は近畿及中部地方の如く盛んでないが、瀬戸内海沿岸には稍見るべきものがある。

綿絲
綿織物

綿絲紡績は岡山・廣島二縣に盛で、岡山・福山を中心としてゐる。綿織物も岡山・廣島二縣に盛で、殊に岡山縣の雲齋織・小倉織及廣島縣の備後緋、山口縣の岩國縮等が盛である。

花筵

花筵は岡山縣に於て最も發達し、疊表は廣島縣が主産地である。花筵は本邦重要輸出品の1で、その産額は岡山縣・廣島縣の順である。

○花筵産額比較

全國	二、九一、〇六〇五圓
岡山縣	一、一五、〇九六圓
廣島縣	五〇八、三二一圓
福岡縣	五〇一、五八八圓
東京府	一六二、〇一三圓

○疊表産額比較

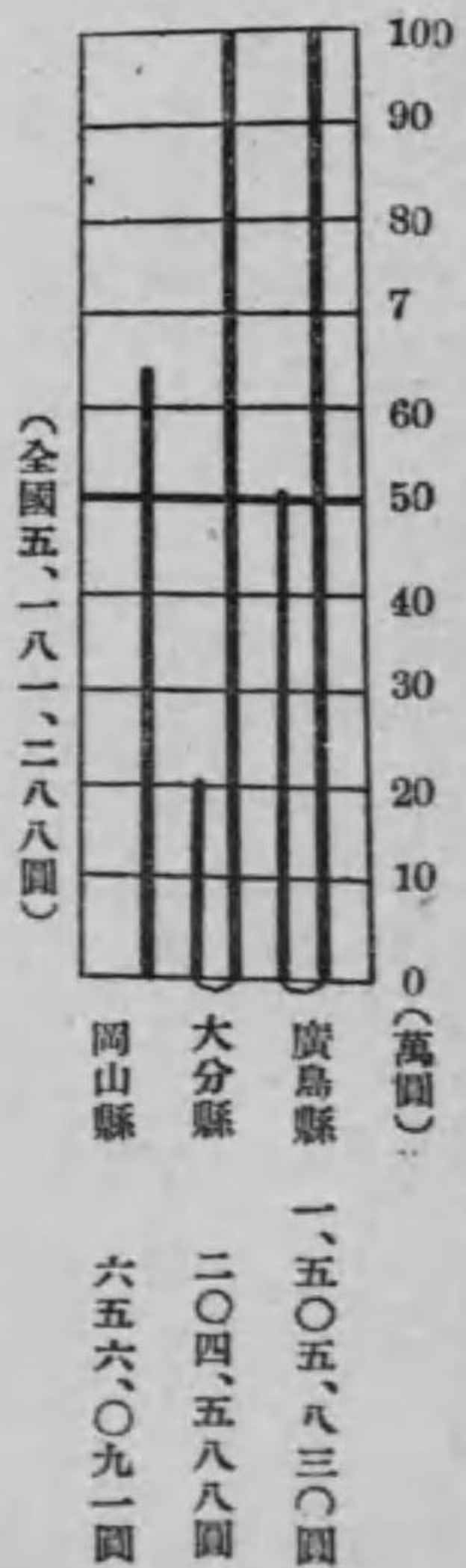
全國	五、一八一、二八八圓
廣島縣	一、五〇五、八三〇圓
大分縣	一、二〇四、五八三圓

第六章 中國地方

岡山縣 六五六、〇九一圓 靜岡縣 三二七、五二〇圓

内地産疊表
産額比較表

(大正四年
末 調)



5、鑛産物

中國地方を構成する花崗岩は中國砂鐵の母岩となり、又建築用石材とする點に於て價值を認められてゐた。近來銅の産額に見るものがある、岡山縣帶江の銅山はその産高別子に次ぎて本邦第五位に居り、吉岡もまた盛である。

○大正五年の銅産額をあげると。

足尾	二三、六七七、八四九斤	日立	二三、〇三四、四七四斤
小坂	二〇、〇八六、六〇一斤	別子	一六、二四七、〇七三斤
帶江	五、六一九、五四一斤	吉岡	一、二一五、一〇四斤 (二十二位)

四、挿畫の説明

○隠岐のいか釣船 (七十七頁)

- 1、本圖は西郷港漁船出帆の光景である。
- 2、いか釣船は夜中作業するものであつて、今夕方出帆して明朝歸帆するのである。
- 3、畫の手前なる人家は西郷西町の一部にして、左中央部に小さな四角形を連ねた様なのは鰯製造天日乾燥の圖である。
- 4、圖の右手前は八尾川の下流で本川は本島第一の長流、長さ三里十八町である。
- 5、圖の上方にて右なる山は愛宕山、左なる山は金峰山である。愛宕山と金峰山との間西郷港口の最も狭い所であつて幅百七十六間である。

〔備考〕

西郷港は東西一里三十五町南北六町、港内水深くて日本海中の良港である。その港頭にあり西郷町は戸數千百餘ある。本島に於ける「いか」漁業は年々豊凶はあるが、鰯として輸出するものをあげると次の様である。

大正元年	貳拾萬圓	大正二年	參拾貳萬七千圓
大正三年	拾九萬五千圓	大正四年	貳拾八萬九千圓

大正五年 四萬八千圓

○岡山附近に於ける花菴の荷造り(七十八頁)

- 1、本畫は岡山附近に於ける花菴の荷造りの狀況にして、本業の盛況を知らせん爲めの挿畫である。
- 2、壁の廻りに多く積み立て、あり、中央に二人相向つて居るは菴で巻いて荷造りする所である。其の側に秤ありて目方を量つて居る。左に立てるも菴にて荷造りする所である。其の向ふに束を肩にして運べるなり。
- 3、花菴の製法は麻又は綿絲を経とし染蘭を緯として花紋を織出すのである。綾織、並織等の種類あるが、綾織が最も廣く需用される。
- 4、世界に於ける重要産地は日本と清國であるが、需用地は重に亞米利加合衆國である。近年合衆國は本邦より蘭草を移植して栽培をなし、花菴の製造に努力しつゝあり。動もすれば粗品を製造せんとする日本當業者は大に自覺せねばならぬ。

五、兒童作業

研究問題

- 1、中國山脈を中心として本地方を南北に分ち産業を比較せよ。
- 2、中國地方に牧牛の盛なる理由如何。
- 3、本地方の南部及西北部に特に水産物の多き理由如何。
- 4、三田尻、兒島半島等に鹽田の多き理由如何。
- 5、山陰に工業の興らざる理由を問ふ。

六、教授上の注意

- 1、中國山脈が本地方の産業に及ぼす影響の大なることを明かにせねばならぬ。
 - 2、瀬戸内海沿岸の製鹽業に適する理を十分に了解せしめねばならぬ。
- イ 降雨少きこと。
- ロ 海濱・花崗岩質の砂なること、
- ハ 海岸遠淺なること、
- ニ 風波穏かなること、
- ホ 潮汐干満の差大なること、

第四節 交通

一、主眼點

山陽方面と山陰方面との交通線の發達に差違あるは何故なるかを調べ、且つ本地方と本地方對岸との交通聯絡の狀況を明かにするが主眼である。

二、準備

日本交通全圖、中國・四國地方掛圖、

三、教材解説

1、瀬戸内海方面の交通

内海方面は沿岸平野連なり、海岸出入に富んで居るから交通便利である。且つ對岸に朝鮮・九州・四國地方ありて此等の地方との往來繁く、爲めに交通線能く發達するに至つた。

山陽線

山陽線は神戸より起りて沿岸平野を西に走り下の關に到る。本邦幹線の一部をなし東京より凡二十五時間を要す。下の關よりは對岸なる九州・朝鮮方面へ鐵道連絡船ありて釜山へ

内海の交通

2、瀬戸内海の交通

は凡十時間を要し、九州へは僅かに十五分にて渡ることが出来る。又岡山より支線發して宇野より四國の高松へ連絡船あり、一時間餘にして讃岐線に連絡が出来る。

瀬戸内海は中國地方と四國地方との間に介在し、東には近畿地方、西には九州地方横はりて一大湖水の觀をなし、沿岸には良港多く航路幅濶して、船舶の往來頻繁を極めて居る。沿岸航路の小汽船は元より外國航路の大汽船絶ゆる時なく、實に我が國に於ける自然の大通路をなして居る。

3、日本海方面の交通

日本海沿岸にも近時山陰線開通し、京都より起りて鳥取・松江を過ぎ仁萬に延びたれば、陸上の交通便利となつた。更に西方に向ひ濱田・山口を経て山陽線に連絡するに至らば、山陰地方の人文發展上影響する所大なるものあるに相違ない。

日本海々岸は中央に島根半島あると夜見半島突出せる外出入少なきを以て良港に乏しく、加ふるに西北の強く、波荒ければ船舶の碇泊困難である。

四、挿畫の説明

山陰線

○下の關海峽にて貨車を運べる船(七十九頁)

- 1、本畫は下の關より門司の西部へ船にて貨車を運ぶ所である。
- 2、山陽線にて下の關に着せる貨車は其の儘船に積む様になつて居る。船は枕木を並べて軌道を敷き、其の上に貨車を載せるのである。向ふに着きし時は陸上の軌道に乗り進む様になつて居る。貨車は一箱八噸乃至十噸の重さがあり三箱宛積んで運ぶ。
- 3、貨車を積める船は汽船に引かれて、靜かに海峽を渡つて居る。
- 4、本畫を入れたるは本邦交通機關の特別な仕掛を知らせると共に、下の關海峽の殷盛を示さん爲めである。

五、兒童作業

(一)研究問題

- 1、山陽方面と山陰方面の交通機關の發達に差違あるは何故へか。
- 2、中國地方より四國・九州・朝鮮への連絡の状況を調べよ。
- 3、瀬戸内海の交通殷盛なるは何故へか。
- 4、奥羽地方の青森より朝鮮の釜山に行くには如何なる交通機關によるべきか、又凡幾

時間にて到着するか。

(二)、中國地方の略圖を描き交通線を記入せよ。

六、教授上の注意

- 1、瀬戸内海の交通盛なることに注意すること。
- 2、下の關は交通上・軍事上大切な地點なることに注意すること。
- 3、山陽線の日本全體より見たる價值を知らずること。

第五節 都 邑

一、主眼點

各都邑の特徴を明かにし、且つ山陽方面と山陰方面とに於て都邑の發達に差違あるを考究せしむるにある。

二、準備

中國地方掛圖、嚴島神社及び出雲大社等の繪畫、

三、教材

○山陽方面と山陰方面とは何れが能く都邑發達せるか、

山陽地方は交通線能く開け、對岸に活動地を控かへ居るを以て、此等の地方との取引繁げく、従つて人文が能く發達した。然るに山陰方面は交通十分ならぬ上に、對手地方を缺ぐを以て人文の發達遅々たるは自然の結果である。

1 岡山縣

○岡山

旭川下流附近に位し、東には神戸・大阪を控かへ、西には廣島・下の關あり、南は高松に近く、従つて貨物の集散繁げく、花菴・織物・米穀の取引盛である。鐵道は山陽線東西に通過するのみならず、中國線は此の地より北の津山に到り、宇野線は宇野を経て高松に向ひ交通便利である。且つ第十七師團あり、第六高等學校、醫學專門學校ありて市況盛、中國第二の大都會をなして居る。

特徴

- 1、商業地
- 2、交通の中心地
- 3、學校所在地
- 4、師團所在地

岡山の特

參考

後樂園は金澤の兼六公園、水戸の常磐公園と共に日本三公園として知られて居る。昔は茶屋敷と稱し池田侯の所有なりしが、明治四年に改めて後樂園と稱し、同七年より公園となした。園内池沼亭榭の安排よく、旭川を隔て、岡山城に對し、四季の眺望に富んで居る。

○津山

津山盆地の中央に位し中國線此處に來る。雲齊織・足袋等の特産物を出す。町の西一里計の所に院の庄あり、後醍醐天皇の隱岐に御遷行あらせらるゝ時の行在所のありし所である。

2、廣島縣

○尾道

廣島縣東部の商業地である、前に向島を控かへ波靜かにして内海航路の要點に位し、四國との連絡船ありて多度津との間僅かに四時間にて渡ることが出来る。壘表の取引盛である。

○廣島

大田川の下流三角洲の上に位す。山陽線は東西に通じ、又南に宇品港を有するを以て、海陸の交通便利に、貨物の集散多く商況殷盛である。加之第五師團、高等師範學校等あり。

人口十五萬、中國第一の大都會をなして居る。

特徴

- 1、交通の中心地
- 2、貨物の集散地
- 3、師團、學校所在地

○吳

廣島灣の東岸に位す、吳線の終點にして前に江田島を控かへ、灣内水深くて自然の良港をなし、我が國の重要な軍港である。造兵廠・造船廠・製鋼所あり、規模頗る宏大にして數萬の職工を養ふて居る。

○嚴島

廣島灣の西岸に近く横はり、一に宮島とも言はれて居る。風光明媚なる嚴島神社は島の北端にあり、遊覽の士が絶えなす。

3、山口縣

○下の關

中國地方の最西南端に位して、神戸より約十二時間の行程にある。下の關海峡を隔て、門

司と相對し西に彦島横はり、瀬戸内海の咽喉となる。山陽線は町の南端に終點を置き、連絡船によりて九州・及び朝鮮に渡る。市況の殷盛は對岸の門司に及ばずと雖も、出入の船舶絶ゆることなく、貨物の集散多く、中國第一の貿易港をなして居る。

參考

下の關は一名赤間關とも云はる。春帆樓は明治二十七八年戰役の時日清の媾和談判の締結されし所。又町の東方の沿岸を壇浦と云ふ、文治二年平氏安徳天皇を擁して最後の決戦をなせし所である。

海峡の西口に横はる彦島と九州との間を大瀬戸と云ひ、此の間が常航路である。彦島と中國との間を小瀬戸と云ひ、大船を通じ得ない。

4、島根縣

○濱田

島根縣の西岸にあり。日本海岸屈指の良港なれば船舶の出入多く、貨物の集散盛である。山陰線全通の曉に

下ノ關海峡圖



○杵築 キヅキ は市況更に活氣を増すに違いない。

○松江 マツエ 島根半島の頸部西岸に位す。出雲大社を以て世に名高い。

島根半島の内側にあり、宍道湖の水が中の海へ流れ出る所に跨り、運輸の便がよい。前に宍道湖の水を一眸の内に眺め、伯耆の大山は富岳の如く東南に聳へ、西南の三瓶山と對して風景頗る美である。

5、鳥取縣

○米子 コメゴ

○境 中海の東南隅・夜見濱の頸部に位す。山陰線の支線を分岐し交通便利にして、附近平野は棉の栽培盛に行はれ、木棉の取引盛である。

夜見濱の北端に位す。北に島根半島を負ふて居るから、西北の風を遮り波穩に、日本海岸に於ける一要港をなして居る。米子・松江との間は元より、山陰諸港との汽船の往來あり、東西貨物の積替所となる。

○鳥取

縣の東部に位し、市況一時衰運に傾きしが、近時漸く活氣を呈し來り、山陰地方東半の中心地を有して居る。繭・生絲が出る。

四、挿畫の説明

○嚴島神社 (八十一頁)

- 1、本畫は大鳥居の前面海上より神社に向つて寫せる所である。祭神は素戔嗚尊の御子市杵島姫、田心姫、湍津姫の三女神である。
- 2、大鳥居は高さ五丈三尺、兩柱の間が五間あり、柱の大きさは下部で東柱の周圍二丈七尺、西柱の周圍が三丈三尺あり、満潮の時は水上に浮べるが如く干潮の時は此の邊まで歩む事が出来る。嚴島神社の額面は有栖川宮熾仁親王の御染筆である。
- 3、大鳥居の右より低く長く連なれる屋は廻廊下と云ひ百四十八間三尺あり、一間毎に鐵の燈籠を釣してある。其の右が本社で拜殿がある。満潮の時は此の宮殿・廻廊下まで水上に浮べる様になる。畫の後方の山は彌山である。

4、日本三景の一と稱せられ、風光明媚、賽者常に絶えない。
○出雲大社（八十二頁）

1、大社は杵築町杵築東にあり、本社は大社を側面より見たる所である。後の山を八雲山と云ふ。

2、御紋付の幕を張りたるが拜殿で、其の後方中間にある門が八つ足御門である。

3、後方に高く千木・堅魚木の見ゆるが本社にして、大國主命を祀り官幣大社である。社殿の構造は即ち大社造りにて、普通の殿堂の側面と云へる面が正面である。昇降階も正面でなく右に扁して居る。此の古風の社殿を拜せば自ら襟を正ふし、神威の尊さを覺へしめる。

4、神官は千家・北島の兩男爵家である。共に天穗日命の子孫で系統正しき舊家である。

五、兒童作業

(一)、研究問題

- 1、山陽方面が山陰方面に較べて都邑能く發達せるは何故へか。
- 2、山陽方面の都邑をあげ其の特徴を云へ。
- 3、山陰方面の都邑をあげ其の特徴を云へ。

4、交通の要路に當る都邑をあげよ。

(二)、中國地方の略圖を描かしむ。

各都邑の記入其の特徴の附記。

六、教授上の注意

- 1、山陽方面と山陰方面との人文發達の差違を明かにすること。
- 2、瀬戸内海が人文發達上如何に勢力あるかに注意すること。
- 3、下の關は日本全國より見ての一大關門なることに注意すること。

第六節 中國地方の概括

一、主眼點

中國山脈を楯にして、山陽方面と山陰方面との自然・人文上の事項を對照し、何れの方面が地理的價值大なるかを知らしむるにある。

二、準備

日本帝國交通圖、中國地方圖、前節にて使用せる繪畫・標本。

三、教材

○山陽方面と山陰方面との地理的事項の對照。

1、位置の上から見て兩方面の價值を考へよ。

イ、山陽方面は對手の地方に富む。

ロ、山陰方面は對手の地方に乏し。

2、氣候の上から見て兩方面の對照をなせ。

イ、山陽方面は溫和で雨量少なし。

ロ、山陰方面は冬季冷寒にして雪多し。

3、地勢の上から見て兩方面の價值を較べよ。

イ、山陽方面は海岸出入多く島嶼に富む、又波靜かである。故に良港に富む。

ロ、山陰方面は海岸出入少なく島嶼少なし、又波荒し、故に良港少なし。

4、産業上から見て兩方面の對照をなし何れが發展し居るかを見よ。

イ、山陽方面は米・牧牛・製鹽業・鯛・牡蠣の産・綿絲・綿織物・疊表・花苳・銅等。

ロ、山陰方面は鰯等の水産・砂鐵・諸工業等。

5、都會發達の上から兩方面を對照せよ。

イ、山陽方面は軍事の中心地、學術の中心地、交通の中心地、商業地等あり。

ロ、山陰方面は大都會なし。

6、交通の上から見て兩方面の價值を較べよ。

イ、山陽方面は海陸の交通便、

ロ、山陰方面は海上の交通不便、

7、山陽方面と山陰方面とは何れが發達し居るか、其の理由を述べよ。

8、兩方面の自然・人文上の差違を生ぜし中心物は何か。

第七章 四國地方

第一節 位置

一、主眼點

中國地方の南に位し、近畿地方と九州地方との間に介在し居る爲め、人文發達の程度住・民の氣質に於て、太平洋方面と内海方面とによりて、大差ある所以を考察せしめんとするの

である。

二、準備

大日本帝國全圖、四國地方分縣地圖、

三、教材解説

四國地方は四國島と其屬島とを併せ稱し、本州の東南と九州の東北との間に介在し、その面積一千百八十一方里、六大島中で最小である。

四、周

東||紀伊水道・鳴門海峡により紀伊半島・淡路島に相對す。

北||瀬戸内海を隔て、中國地方に相對す。(播磨灘・備後灘・伊豫灘等あり)

西||豊後海峡・及豊後水道により九州に相向ふ。

南||土佐灣を抱きて太平洋に面す。

四、兒童作業

(一)、研究問題

1、四國地方の南面と北面とにより氣候上如何に差あるか、

2、南部地方は北部地方に比し常に文化が後れ勝ちである、これを位置の上より説明せよ。

(二)、四國地方の略圖を描き區分・四周を記入せよ。

五、教授上の注意

1、本地方の内海岸と太平洋岸とはその自然上の位置に於て大差なきも、之を人文上より見ば大なる差異あることに留意して取扱ふこと。

2、本地方内海に面する土地の住民は稍柔弱にして、太平洋に面する土地の住民の質朴なるは位置が然らしむる所以を明にすること。

六、參考

氣候

内海方面は溫暖にして、雨量少く製鹽に適する地が多い。太平洋方面は雨量甚だ多く氣温も著しく高いから、稻が一年に二度熟する所さへある。又土佐の南部に於ては熱帶植物なる蒲葵ビロウの如きものがよく繁殖する。

第二節 地勢

一、主眼點

四國山脈の氣候・産業・交通上に及ぼす影響を探究するを以て主眼とする。

二、準備

日本全圖、四國地方地勢圖

三、教材解説

1、地勢の特徴

(1) 四國山脈東西に走る。

(2) 平野は所々に散在す。

(3) 海岸は南北岸は出入大に、東西岸は出入小し。

2、地勢の概要

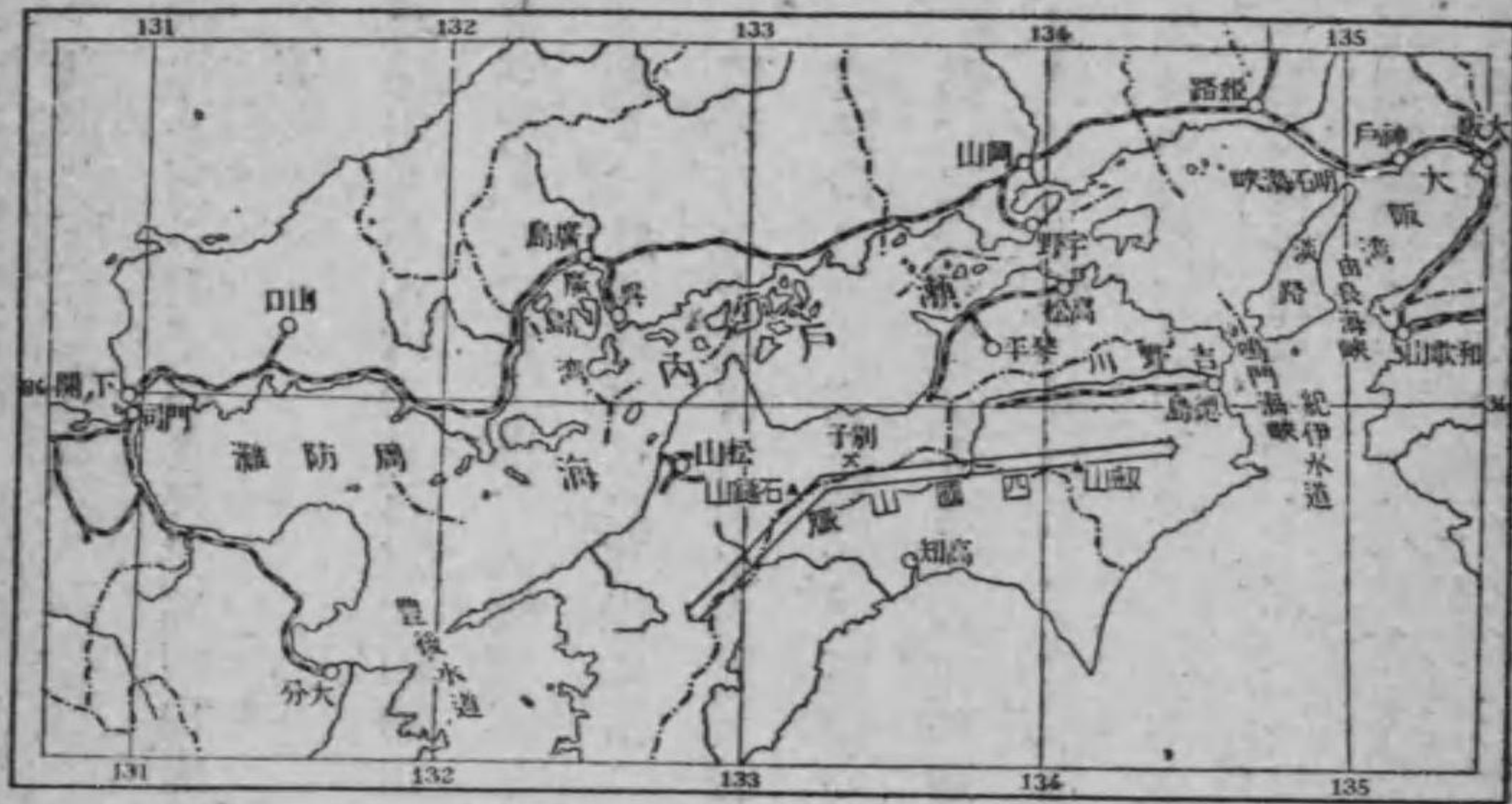
山岳・河川、

四國の中央を東西に走る山脈を四國山脈と云ひ、西は九州山脈に、東は紀伊山脈に連る。四國山脈の主脈を石槌山脈と云ひ、伊豫と土佐との境上を東西に走り、其餘勢南北の斜面に及んで居る。主峯を石槌山と云ふ。又四國の北側には讃岐山脈ありて、阿

四國地方の地勢の特徴

四國山脈と交通の關係

瀬戸内海沿岸圖



第七章 四國地方

波と讃岐との境に高く西方に低い。吉野川の南側には劔山山脈ありて阿波の國に跨り、劔山が最も名高い。此の如く、四國山脈東西に走るを以て南北の交通を妨げ、人文の發達を妨げるこゝとが少なくない。河は之等の山脈に發して四方に流される。吉野川は源を石槌山中に發して、阿波の北部を東流して、沿岸平野を作り、紀伊水道に入る。此外、平地は讃岐・松山・高知附近に僅少の平野あるのみである。

○海岸

海岸は出入に富み、東西兩岸は小出入多く、南北兩岸は大出入がある。殊に瀬戸内海と豊後水道とは出入に富める上に島嶼群をなし、數多の

良港を有して居る。

等によら)

○ 劔山 高さ七千四百尺、四國山脈中の最高峰である。夏時登山者が多い。(高山植物採集等によら)

○ 石槌山 高さ六千九百尺、四國山脈中第二の高峰である、夏時登山者が多い。

○ 吉野川 長さ六十里、四國三郎と號し四國第一の長流である。池田より下流舟運の便もあり、且つ近來は其河岸に沿ふて徳島線(徳島池田間)が開通し交通便利である。池田近傍の上流に四國水力電氣發電所がある。

吉野川は實に徳島縣生産區域の約五割八分に渉る人事活動の最も盛なる範圍を灌溉し、沿岸平野より産する藍の産額は全國第一、煙草の産も又頗る多い。

○ 紀伊水道 此の海岸出入に富み良港が多い。

○ 豊後水道 海岸屈曲多く數多の小半島・入江あり、山脈海に迫つて「リアス」式海岸をなし、所々に良港がある。

四、兒童作業

(一) 研究問題

1、四國四縣は各その住民の氣質・風俗等を異にする何故か。

2、高知縣人の豪毅にして朴訥なるは何故か。

3、四國山脈の自然並に人文上に及ぼせる影響を調べよ。

4、本地方に大なる河川なきは何故か。

(二) 高松より劔山を連ぬる直線を以て四國島を横斷し、東方より見たる斷面圖を描け。

五、教授上の注意

1、中國地方と其地勢を比較せしむること。

2、地勢と氣候との關係を知らしむること。

3、地勢の人文上に及ぼせる影響を明にすること。

第三節 産業

一、主眼點

本地方は四國山脈の兩方面に於て産業に差異を生じ、且つ四周に水産物多きは何故なるかを研究し、又各縣特有の産物あるを知らしむ。

二、準備

四國地方圖、坂出鹽田・鯉節製造と鯉釣・四坂島製鍊所等の繪畫鯉節・鹽銅鑛・和紙等の標本。

三、教材解説

1 林業

太平洋方面は氣候溫暖にして雨量多きを以て、森林到る處に繁茂し良材に富む。中にも樟が多い。

2 水産業

○製鹽―瀬戸内海方面は雨量割合に少くして、遠淺砂濱であるから製鹽業が盛である。坂出・撫養はその主産地で、坂出は全國第一の産額を有する。

内地産鹽産額比較表

(大正四年末)



○漁業―近海到る所魚族の種類に富み、内海方面には鯛・鯖等、太平洋方面には土佐灣に

鯉、室戸崎の沖に鯨の漁獲が多い。高知縣には鯉節の年産額八十八萬圓あり、全國第

三位である。(第一は静岡・第二は鹿児島)

○珊瑚―高知縣の西南海中に珊瑚の産あり、年額九萬五千圓。

3、鑛業

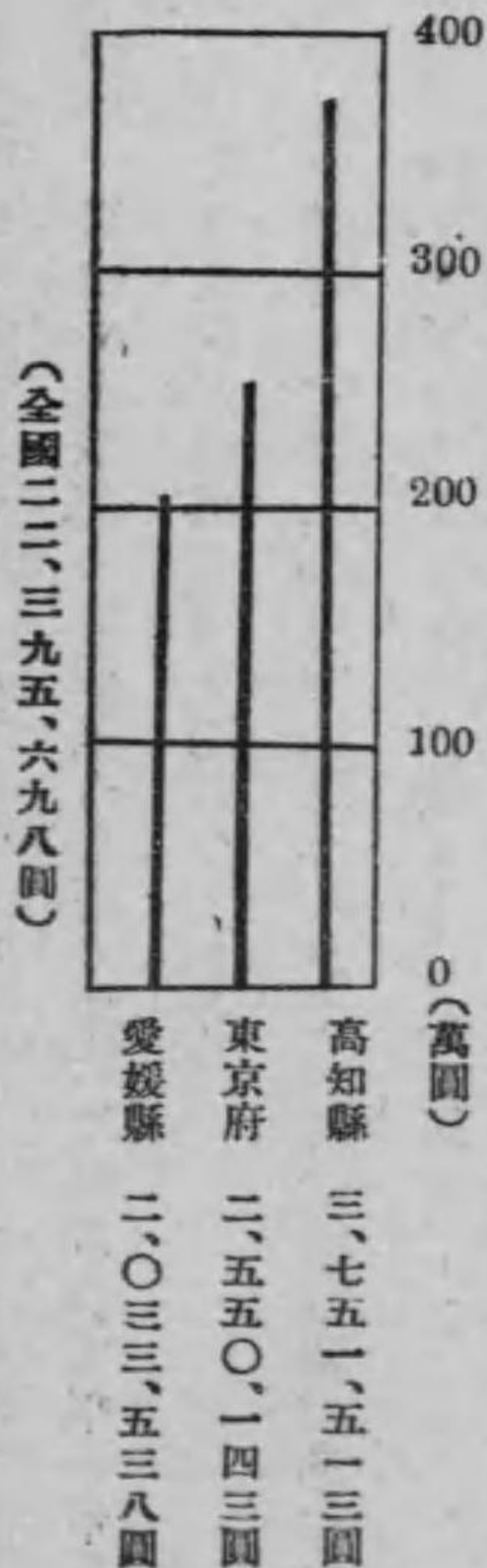
別子銅山より銅を産す。年産額一千六百萬斤にして全國第四位である。

4、和紙製造

愛媛縣肱川の流域及び高知縣仁淀川の流域には楮・三桠を植え、半紙の製造が盛で、伊野・大洲は其中心地である。高知縣は我國で第一の産額を有する。

内地産和紙産額比較表

(大正四年末)



5、農業

○米―海岸及河流の平野に産す。殊に高知縣南部には再收穫をなし得る處さへある。

○藍〇吉野川下流の平野に産し、葉藍年産額は百五十三萬圓で日本第一である。もと藍の栽培は蜂須賀侯の獎勵によつたもので非常に盛であつたが、今日では價廉なる印度藍の壓迫を受け、又歐洲戰爭前には獨逸人造藍の勢力に壓されて年一年と衰微しつゝありしを以て、今は此れが復興の策を講じつゝある。

附説〇香川縣の砂糖も讃岐三白の内に數へられて一時は餘程盛であつたが、今日は廉價なる臺灣産砂糖の影響により殆んど絶えんとして居る。

○葉煙草〇吉野川上流地方に多く産す、年産額九十四萬圓で、鹿兒島・茨木・栃木につき、我國第四の生産額を有する。

6、其他

○綿織物〇愛媛縣に多く産する。

○絹は年産額百四十三萬圓、全國第二位。(第一位奈良縣)

○綿フランネルは年産額三百二十萬圓、全國第三位。(第一位大阪府・第二位和歌山縣)

四、挿繪の説明

○坂出の鹽田(八十五頁)

- 1、本畫は坂出の海岸、鹽專賣支局の前面の鹽田を寫せる所である。
- 2、左の屋は鹽をたく釜屋で煉瓦造の煙突が立つて居る。向ふの建物は專賣支局で中央に立てるは事務所、右方の家は倉庫である。
- 3、鹽田は外圍は堤防を築きて海水の浸入を防ぎ、内部の鹽田には八間毎に大小の溝を穿ちて海水を導き來る。畫中に見る左右に引ける二重線が即ち此の溝である。
- 4、鹽田は一・二町歩を一釜屋分(一軒分)としてある。畫中に砂の盛つてある様に見ゆるは沼井ヌイと稱するもので、砂に付き居る鹽分を濾過する所である。
- 5、鹽田は下層に貝殻や砂礫を埋め、其の上に細き砂の層を作つてある。海水は周圍の溝より此の砂に吸收される。又長柄の「ヒシヤク」にて溝の海水を汲み一面に撒き散らすのである。すると天日によつて水分蒸發し鹽分は砂に附着して殘留する。此の砂を双木フタキにて掻き廻して水分の蒸發を便ならしむ。此れを引濱と云ふのである。畫に見るは此の引濱の所である。
- 6、砂に十分に鹽分の附着せるを見て、此れを掻き集めて沼井中に入れ、溝より海水を汲み來りて上から注ぎ、砂の鹽分を濾過するのである。濾過せる鹹水は沼井の底に溜ま

る。此れを沼井の側にある鹹水溜より汲み取り、晝中に見る如き釣瓶の下にある鹹水溜に集める。

7、此れを釣瓶によつて汲み上げ屋内の鹹水溜に集め、此れを釜に入れて煎熬し、精製して始めて食用となるのである。

○鯉節製造と鯉釣（八十六頁）

1、鯉節の製法

頭落庖丁にて頭を切り落し腹部の肉を去り、次に身卸庖丁にて脊骨の右と左とを切りて三枚となし、又肉の中央部脊骨のありし所より身割庖丁にて縦に兩斷す、其の背の方を雄節と云ひ、腹の方を雌節と云ふのである。

身割終らば竹製の煮籠に菑を敷き其の上に丁寧^{カゴボケ}に並べる。此れを籠立と稱す。別に大釜の湯の沸騰せるを少許の水を入れて停め、其の中に五六枚の籠を入れ一時間半位煮熟する。更に此れを取り出し骨拔鹽に清水を盛りたる内に、籠のまゝ浸して小骨を抜き、雄節は表面の皮を三分の二、雌節は三分の一を除く。

後摺りたる肉を以て其の損所を修繕し、此れを蒸籠に並べ、火山^{フナ}又は焙乾室にて燻乾す

ること凡そ三日乃至一週間を経ば此れを削りて形を整ふ。此れを節造^{フシノボ}と稱す。其の削りたるものは凡そ七日間樽又は箱に入れ、或は簀巻となし青黴を生ぜしめ、一日乃至二日間乾せし後更に十二三日間位黴附をなし、取出して日乾して製了するのである。

2、挿畫の説明

イ、晝中の中央に籠を肩にして左に向へるは削りたる節を前面の日乾場に運搬しつゝある所。
ロ、其の左手に正面に向ひて節を手にし居るは削りたる節を並べつゝある所にして、節は削りたる後一・二日間日光にて乾燥し、後箱又樽に詰めて黴附をなす。(中央に多く箱に並べあるは乾燥中のもの)

ハ、其の左に腰を屈め居るは鯉節の繩がけ荷造中にて箱は十貫匁入とす。

ニ、其の左に擔ぎ居るは荷造の出来上がりしものを運搬する所。

ホ、其の左の人は日乾終りたるものを槽に積み込みつゝある所である。槽は直徑六尺高さ四尺位あり。

ヘ、前面に無数の節の乾しあるは仕上りたる節にして、貯藏中の節は此くの如くして一月に一・二回位日乾をなし、害虫を防ぎ香味を保存する様に努む。

3、漁法

三〇二

網を用ひることあれど、主として竿釣す。即ち二間半乃至三間位の竿に絹絲と釣を附け餌には生きたる鱈を用ゆ、魚の群集する時は擬似鉤を使用す。發動機を据付けたる漁船に四十人位乗り込み、黒潮に接近せる所まで三十哩位の沖合に出で、魚群を搜りて釣獲するのである。挿畫は今盛に釣りつゝある所である。漁季は春より秋の間で春を「上り」と云ひ、秋を「下り」といふ。足摺崎沖を最とし室戸岬沖が是れに次いで居る。(以上高知縣師範學校附屬小學校調)

○四阪島製錬所(八十七頁)

- 1、此の製錬所は四阪島の中の「家の島」にある。
- 2、晝中右手に數本の煙突より煙の群がり出る所は燒鑛所のある所で、其處には燒鑛竈が並んで居る。左中央の煙突のある所は熔鑛所のある所である。
- 3、生鑛の一部は燒吹法にて處理する。即ち燒鑛窯に填充し此れに石炭を加へて點火し、燒成したる燒鑛は更に鎔鑛爐に送り、骸炭を用ひて鎔解せしむるのである。かくて生成したる生鍍は鍍と共に前床に流入せしめ、鍍は其の上口より間斷なく鍍壺に流入せしめて、

此れを海岸に運搬して海岸埋立の用に充てる。而して生鍍は時々其の下口より拔出して砂型に入らしめ、放冷の後手工を以て之を適當の大きさに破碎し、更に之を生吹法に附して品位高き生鍍を得、再び適當の大きさに破碎したる後、之を燒鑛窯に填充し燒成したる燒鍍は此れを鍊銅爐に送り、骸炭を用ひて鎔解せしむるのである。因つて生成したる鍍は該爐内坩堝の上口より間斷なく鍍壺に流入せしめ、放冷の後破碎して鎔鑛爐に送り再び鎔解に附する。鍊銅鍍は即ち此れである。而して該坩堝に貯藏する所の稠密鍍は時々其の下口より拔出して前床に流入せしめ、更に其の表面より鼓風を送りて酸化せしめて生成する「ドブ」を除き、粗銅を製出するのである。此の粗銅は之を反熔式精銅爐に装入し、酸化還元の兩作用を受けしめて生成する「ドブ」を除き精銅を製出するのである。

- 4、又生鑛の一部は生吹法によりて處理するのである。即ち生鑛を鎔鑛爐に装入し少量の骸炭を使用し、主として鑛石所含の鐵及び硫黃の酸化熱を利用して鎔解せしむ。かくて生成したる生鑛は前と同じ法にて製錬するのである。
- 5、鑛物は別子銅山に産し、軌道によりて新居濱に運搬し、此處より船に積み、汽船に引かして九狸の沖合なる四阪島に運ぶのである。住友家の所有である。別子・新居濱・四

阪島には私立小學校を設置して坑夫の子弟教養をなして居る（以上地理教科書挿畫解説による）

五兒童作業

（一）研究問題

- 1、四國地方の主産物の産額は全國より見て如何なる地位にあるか。
- 2、高知縣に林業の盛なる理由如何。
- 3、瀬戸内海に製鹽業の盛なるは何故か。
- 4、太平洋方面に鯨・鯨の産出多き理由は如何。
- 5、徳島縣の藍・香川縣の砂糖の衰へる理由を問ふ。

（二）描圖

四國地方略圖を描き産物を記入せしむ。

（三）實地調査

附近に鹽田ある所は其の實際を調査せしむ。

六、教授上の注意

- 1、瀬戸内海方面の鹽、及び太平洋岸方面の林業と氣候との關係を明かにすること。
- 2、高知縣に漁業の盛なる理由を明にすること。
- 3、四國各縣の産業はその發達未だ遅々たるも、各縣特有のものを出し、而かもそれが本邦に於ける主要の地位を占むるものなることに注意すべきこと。

第四節 交通

一、主眼點

陸上交通の不便なる所以、及び内海方面の海上交通の便利なる現況を知らしむ。

二、準備

中國及四國地方掛圖、

三、教材解説

1、陸上の交通、

四國山脈中央を東西に走るを以て、南北の交通は至つて不便である。鐵道は吉野川沿岸、讃岐の海岸、松山附近に部分的の發達をなせるのみで、東・西・南・北の連絡を見ず、

第七章 四國地方

陸上交通不便。

内部の交通は甚だ不便である。併し近く讃岐線は西に延びて伊豫鐵道に、又徳島線と讃岐線との連絡の計畫あれば、全通の曉には便宜多からん。

讃岐線—高松—伊豫三島

徳島線—小松島—徳島—池田

伊豫鐵道—松山—郡中

松山—横河原

松山—森松

松山—高濱

宇和島鐵道—宇和島—近永

2、航路

本地方は他地方と交通せんには常に水路によらねばならぬ。而して瀬戸内海は波濤にして良港が多いから、汽船の往來が頻繁である。陸上交通の不便には比ぶべくもない。之等の航路は凡て大阪を起點として、四國の高松・多度津・今治・高濱・八幡濱・宇和島・撫養・徳島・小松島等の諸港より、神戸・尾ノ道・下關・門司等に通ふ汽船の絶間がない。

四國中國の連絡

高松—宇野。多度津—尾ノ道。多度津—玉島。尾ノ道—高濱。

宇品—高濱。尾ノ道—新濱。

四、兒童作業

○研究問題

1、本地方の陸上交通の不便なる原因及び海上交通の便利なる理由如何。

(位置上・地勢上)

2、鐵道線路の發達せるほどの邊か、其の名を言へ。

3、本地方と中國地方とは交通上如何なる關係を有するか。

五、教授上の注意

1、本地方の交通が北に便に、南に不便なる理を明にすること。

2、將來は四國一周鐵道の敷設さるべき豫定なることを知らしむること。

第五節 都邑

一、主眼點

他の地方に較べて本地方の人文餘り發達せざるは何故なるか、且つ南半は北半より更に發達し居らざる狀況を知らしむ。

二、準備

四國地方分縣地圖。高松と屋島の繪畫。

三、教材解説

四國は中國地方との間に瀬戸内海ありて本州と接続せざるを以て、人文の發達遅く、且つ四國山脈東西に連互して平地少ければ郡邑發達せず、唯だ所々にある小平野と海岸地方に發達せるのみである。

○徳島(人口七・二萬)

吉野川下流の三角洲に發達し、四國第一の大都會である。白木綿・綿ネル・紺緋・阿波縮等の綿織物を産出する。

徳島市發達の原因

1、吉野川下流の平野に立つ。

2、紀伊水道に臨み大阪、神戸に近い。

3、附近産業盛にしてその中心都市となる。

4、鐵道徳島線の要地たること。

5、蜂須賀氏の舊城下なること。

○高松市

高松は西南部に有名なる栗林公園附近に屋島の古戰場がある。讃岐線の起點であり、且中國・四國との最近距離點に位し、對岸宇野港との間に連絡船の便があるから、四國の門戸をなし交通が便利である。産物としては漆器・保多織等がある。もと松平氏の城下である。

○丸龜市

香川縣第二の都會で、團扇・竹細工等の産が多い。もと京極氏の城市で、其の城趾たる丸龜城の天主閣は老樹鬱蒼たる小丘の間に見ゆ。

○多度津

内海に臨める良港で、内海通路の寄港地である。尾ノ道との間には定期船の往來あり、又

鐵道讚岐線と豫讃線との分岐點である。

○善通寺

弘法大師の誕生地として名高く、今日は第十一師團の所在地として繁昌して居る。

○琴平

金刀比羅宮を以て繁榮し、賽客常に絶えない。金刀比羅宮には大物主命・崇徳帝を合祀す、國幣中社である。

○松山市

縣の中部にあり、元と久松氏の城市である。今は伊豫鐵道四周を繞り、西に三津濱線、北に道後線、南に郡中線あり、三津濱・高濱は北方の門戸をなして居る。伊豫緋の集散地で、中國・九州より廣く大阪・東京にまで販路を有する。

○道後温泉

松山の北方十八町にある。古より有名な温泉で、神代より浴用に供せられたやうである。

伊豫の湯の汀に立てる玉の

それぞ神代のしるなるらん。

(覺理法皇)

又屢々天皇の行幸もあり。

○三津濱

古來有名な港で、松山市の外港をなし、貨物の集散が盛である。近時はその繁榮を高濱に奪はれつゝある。

○高濱

錨地安全にして、船舶の出入多く、松山との間に伊豫鐵道がある。又字品との間に定期航通があつて、船舶の出入頻繁である。

○高知

縣の中部・土佐灣の奥なる浦戸灣に臨んで居る。元と山内氏二十四萬石の城市で、高知平野の中央に位し、太平洋方面物貨集散の中心市場である。

四、挿畫の説明

○高松と屋島(八十八頁)

1、此の畫は高松市の西方丘上より屋島を眺めたる所である。畫中の汽車は今西より走り來て高松驛にさしかゝる所である。軌道の左手は鹽田にして、右手の市街が高松である。

- 2、高松は人口四萬あり、畫中の先方に森の如く黒く見ゆるは玉藻城址（高松城）にて、松平伯の邸宅あり、港内は八萬坪の廣さに達し、四國第一の良港である。
- 3、向ふに見るは屋島山にて山上は平坦にして標式的の台地をなす。風光絶佳、源平戦争のありし屋島壇浦は山の向ふ側である。

五、兒童作業

(一) 研究問題

- 1、高知・徳島發達の原因を考へよ。
- 2、琴平の發達の原因は何にあるか。
- 3、香川縣は面積小なるに都邑多きは何故か。
- 4、本地方都邑の主として海岸に發達せるは何故か、また瀬戸内海岸に都邑の多きは何故か。
- 5、本地方に都邑のあまり發達せざるは何故か。

(二) 略圖を描き都邑・鐵道線路を説入せよ。

六、教授上の注意

- 1、都邑所々に點在せる理由を明にすること。
- 2、都邑の特色を明にすること。
- 3、南北兩方面に於て人の性質の異なることを附説するも面白い。

第六節 四國地方の概括

一、主眼點

四國地方の自然人文上の事項を明にして、その發達十分ならぬ理由を考究せしむ。

二、準備

日本全圖、四國地方掛圖、各節にて用ひし標本・繪畫。

三、教材

- (一)、南半と北半とに分ちて各要素の對照をなさしむ。
- 1、兩方面にて平地の發達如何。
- 2、兩方面にて海岸の出入に差異あるか。
- 3、兩方面にて氣候に差異あるか。

- 4、兩方面にて産物に差異あるか、又同じきものは何か。
 - 5、兩方面にて何れが交通便利なるか、又何故なるか。
 - 6、兩方面に於て何れがよく都邑發達せるか、又何故なるか。
- (二)四國地方が他の發達せる地方に較べて其發達十分ならぬは何故か。
- 1、位置上から見て如何。
 - 2、地勢より見て如何。
 - 3、産物から見て如何。
 - 4、交通から見て如何。

尋常
小學
地理教授精案終

大正七年七月十四日印刷
大正七年七月十七日發行

尋常小學地理教授精案
定價金九拾錢

不
許
第五學年用
複製

著作者

日高佐七

發行者

大葉久吉

印刷者

青柳十一郎

東京市牛込區市谷加賀町一丁目十二番地

發行所

東京市日本橋區本石町三丁目
振替口座東京二八〇番

東京寶文館

西專賣

大阪市東區淡路町四丁目
振替口座大阪四三番

大阪寶文館

終

